

南国市埋蔵文化財調査報告書 第18集

岩 村 遺 跡 群 Ⅲ

—岩村地区県営担い手育成基盤整備事業に伴う発掘調査報告書—

1998. 3

高知県南国市教育委員会



岩村上居城跡全景（平成 8 年度）



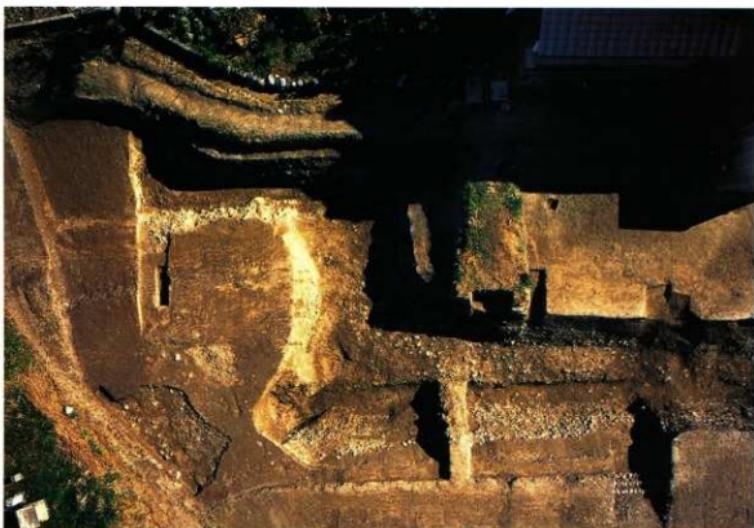
岩村土居城跡 堀（西ノ内）



岩村土居城跡 堀 VII-1区（北より）



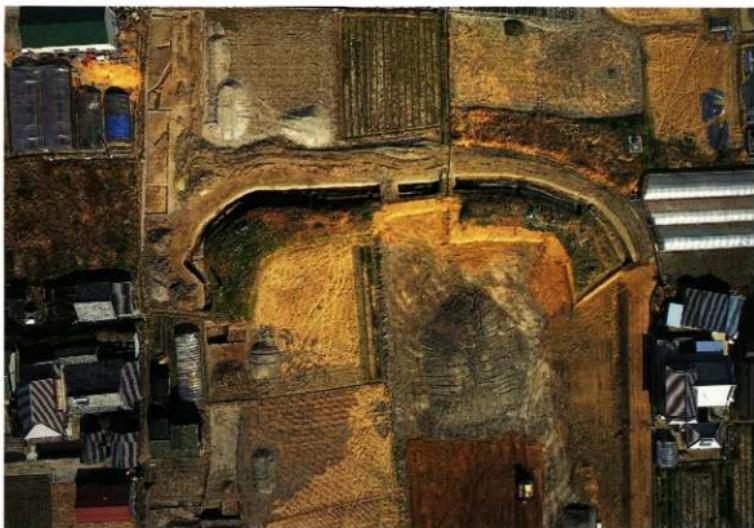
岩村土居城跡 堀 VII-1区（南より）



岩村土居城跡 堀 VII-1区（内堀・外堀連結部）



岩村土居城跡 堀 VII-1区（南部集石）



岩村土居城跡 堀 Ⅸ-2区



岩村土居城跡 Ⅸ区



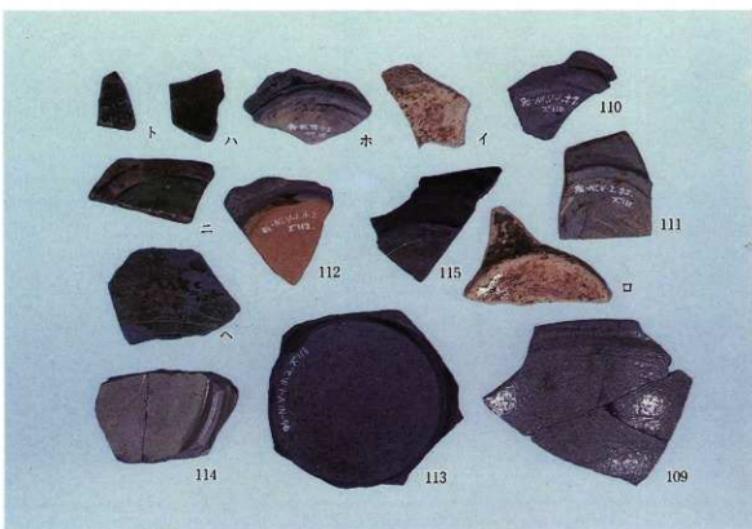
岩村土居城跡全景（平成 9 年度）



岩村土居城跡 堀 VII-2区 (TR 1~7)



岩村土居城跡 堀 VII-2区 (TR 4・5)



綠釉陶器（外面）



綠釉陶器（內面）

序

岩村遺跡群の所在する南国市は、高知県の中央部に位置し、市域は北部の山間部と南部の平野部に2分されます。平野部の南端は太平洋に面し、黒潮の恩恵による温暖な気候は、市名の由来にもなっています。

この恵まれた自然環境は太古より人々の繁栄を生み、土佐の政治・文化の中心地として長い歴史を積み重ねてまいりました。その一部は遺跡として残り、我々に祖先の暮らしぶりを今に伝えてくれます。南国市は県内で最も遺跡の集中する地域であり、急速に進展する開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっています。

岩村地区県営手作成基盤整備事業に伴う岩村遺跡群発掘調査は、平成7年度から始まり、今年で3年目を迎えました。これまでの調査では、弥生時代・中世・近世の3時期を中心とした遺構が検出されました。特に昨年度と本年度の調査により、岩村土居城跡の堀の様相がほぼ明らかになったことは、大きな成果となりました。

本書は、その堀を含めた平成8年度・9年度の調査の一部をまとめたものです。今後広く利用され、文化財保護および学術研究の一助になれば幸いと存じます。

最後に、調査にあたりご指導を賜りました高知県文化財団埋蔵文化財センター調査第3班長出原恵三氏、高知県教育委員会、高知県文化財団埋蔵文化財センター、また、文化財への深いご理解とご協力をいただいた高知県南国耕地事務所、物部川右岸土地改良区、地権者、地域住民の方々、そして発掘・整理作業にご尽力いただいた作業員の皆様に、心より厚く御礼を申し上げます。

平成10年3月

南国市教育委員会

教育長 西森善郎

例　　言

1. 本書は、南国市教育委員会が高知県の委託を受け、平成7～9年度に実施した岩村地区県営担い手育成基盤整備事業に伴う岩村遺跡群の緊急発掘調査報告書第Ⅲ集である。
2. 岩村遺跡群は高知県南国市福船に所在する。
3. 平成9年度の発掘調査は、平成9年5月26日から平成10年2月2日まで行った。
4. 各年度ごとの調査は以下のとおりである。

平成7年度……I区（1,561m²）、II区（784m²）、計2,345m²

平成8年度……III区（390m²）、IV区（650m²）、V区（500m²）、VI区（200m²）、
VII区（1,490m²）、VIII区（270m²）、IX区（410m²）、計3,910m²

平成9年度……VI区（307m²）、VII区（418m²）、VIII区（230m²）、X区（2,320m²）、
XI区（1,124m²）、計4,399m²

I区については「岩村地区県営圃場に伴う岩村地区発掘調査概要」で、II～IV区については「岩村遺跡群II」で既に報告書を刊行している。

本書は、V区、VII区、IX区の報告書である。

5. 発掘調査は、高知県教育委員会、高知県文化財団埋蔵文化財センターのご協力を得て、南国市教育委員会が主体となって実施した。平成9年度の調査体制は以下のとおりである。

調査員 橋田和典 南国市教育委員会 社会教育課 主幹

タ	三谷民雄	タ	タ	主事
調査補助員	北村邦博	タ	タ	臨時職員
タ	秋山敏之	タ	タ	タ
タ	三島康生	タ	タ	タ
タ	水田宣秀	タ	タ	タ
タ	野村恭司	タ	タ	タ

6. 本書の編集・執筆は、出原恵三氏（高知県文化財団埋蔵文化財センター調査第3係長）のご指導のもとに三谷が行なった。
7. 緑釉陶器については、京都市埋蔵文化財研究所の平尾政幸氏に鑑定をお願いした。記して厚く謝意を表したい。
8. 岩村土居城跡出土遺物については、松田直則氏（高知県文化財団埋蔵文化財センター調査第5係長）のご教示を得た。記して厚く謝意を表したい。
9. 現場作業においては、山原氏のご指導、ご教示を得、宅間一之氏（高知県立坂本龍馬記念館学芸専門員）のご助言を得た。整理作業においては高知県文化財団埋蔵文化財センター整理作業員の山中美代子氏、矢野雅氏などのご協力を得た。記して厚く謝意を表したい。
10. 発掘調査にあたっては、物部川右岸土地改良区の皆様をはじめ、地元住民の方々のご理解、ご協力を得た。また現場作業員、整理作業員の皆様のご協力を得た。記して深く謝意を表したい。
11. 当遺跡出土遺物は南国市教育委員会が保管している。遺跡の略号は96-N I、97-N Iである。

本文目次

第Ⅰ章 これまでの経過と調査の方法

1 これまでの経過	1
2 調査の方法	2

第Ⅱ章 周辺の地理的、歴史的環境

1 地理的環境	4
2 歴史的環境	4

第Ⅲ章 調査の成果

1 V区の調査	7
2 VII・IX区の調査	18

第Ⅳ章 考察

1 岩村土居城跡の概要	38
2 岩村土居城跡出土遺物について	39
3 岩村遺跡群出土緑釉陶器について	40

押図目次

Fig. 1 南国市位置図	2
Fig. 2 岩村遺跡群調査区位置図	3
Fig. 3 岩村遺跡群の位置と周辺の遺跡	6
Fig. 4 V区基本層序	7
Fig. 5 V区検出構全体図およびセクション位置図	9
Fig. 6 S X 1 平面図・セクション図・出土遺物実測図	11
Fig. 7 S K 1 ~ 4 平面図・エレベーション図・出土遺物実測図	12
Fig. 8 S D 1 ~ 5 エレベーション図・集石遺構平面図・エレベーション図・出土遺物実測図	14
Fig. 9 包含層出土の遺物実測図	15
Fig.10 包含層出土の遺物実測図	16
Fig.11 包含層出土の遺物実測図	17
Fig.12 VII・IX区全体図	19
Fig.13 南部集石平面図・エレベーション図	20
Fig.14 堀セクション図	24

Fig.15	堀セクション図	25
Fig.16	堀セクション図	26
Fig.17	堀・IX区SD2セクション図	27
Fig.18	SD2・4セクション図、土量・堀エレベーション図	28
Fig.19	堀出土遺物実測図	29
Fig.20	堀出土遺物実測図	30
Fig.21	堀出土遺物実測図	31
Fig.22	TR1～7出土遺物実測図	32
Fig.23	SR1出土遺物実測図	33
Fig.24	SR1出土遺物(256～259)・SR2出土遺物(260～276)実測図	34
Fig.25	SD出土遺物実測図	35
Fig.26	SD出土遺物実測図	36
Fig.27	SD出土遺物(310)・包含層出土遺物(311～322)実測図	37
Fig.28	岩村土居城跡地籍図	38
Fig.29	縄釉陶器出土遺跡分布図	41

表 目 次

表1	VII区出土中世土器量および各器種の占める割合	39
表2	縄釉陶器一覧	40

写真図版目次

巻頭図版 1	岩村土居城跡全景(平成8年度)
巻頭図版 2	岩村土居城跡 堀 VII-1区
巻頭図版 3	岩村土居城跡 堀 VII-1区(北より)、(南より)
巻頭図版 4	岩村土居城跡 堀 VII-1区(内堀・外堀連結部)、(南部集石)
巻頭図版 5	岩村土居城跡 堀 VII-2区、IX区
巻頭図版 6	岩村土居城跡全景(平成9年度)
巻頭図版 7	岩村土居城跡 堀 VII-2区(TR1～7)、(TR4・5)
巻頭図版 8	縄釉陶器(外面)(内面)
P L. 1	V区完掘状況(北より)、SX1完掘状況(北より)
P L. 2	V区 SX1-P1遺物出土状況、SK1完掘状況
P L. 3	V区 SK2完掘状況、SK3完掘状況

- P L. 4 V区 SK 4 完掘状況、集石検出状況
- P L. 5 岩村土居城跡 VII-1区内堀（北より）、（南より）
- P L. 6 岩村土居城跡 VII-1区内堀南部集石（南より）、SR 1 遺物出土状況
- P L. 7 岩村土居城跡 VII-1区内堀セクション⑨-⑩、床面出土遺物
- P L. 8 岩村土居城跡 VII-1区内堀セクション⑬-⑭、VII-2区外堀セクション⑯-⑯
- P L. 9 岩村土居城跡 VII-2区外堀（東より）、（西より）
- P L. 10 岩村土居城跡 VII-2区外堀セクション⑰-⑰、⑮-⑯
- P L. 11 岩村土居城跡 VII-2区外堀セクション⑰-⑰、外堀
- P L. 12 平成9年度VII-2区調査前全景（西より）、（東より）
- P L. 13 VII-2区TR 1（南より）、TR 1 東壁セクション⑯-⑯
- P L. 14 VII-2区TR 2（南より）、TR 2 東壁セクション⑯-⑯
- P L. 15 VII-2区TR 3（南より）、TR 2 東壁セクション⑯-⑯
- P L. 16 VII-2区TR 4（西より）、（南より）
- P L. 17 VII-2区TR 4（東より）、TR 4 西壁セクション⑯-⑯
- P L. 18 VII-2区TR 5 西壁セクション⑯-⑯、TR 6・7（東より）
- P L. 19 VII-2区TR 6 西壁セクション⑯-⑯、TR 7 西壁セクション⑯-⑯
- P L. 20 IX区TR 2（北より）、TR 3（北より）
- P L. 21 V区出土遺物、VII区出土遺物
- P L. 22 VII区出土遺物
- P L. 23 VII区出土遺物
- P L. 24 VII区出土遺物
- P L. 25 VII区出土遺物
- P L. 26 VII区出土遺物
- P L. 27 IX区出土遺物
- P L. 28 VII区出土土師器、VII区出土瓦器
- P L. 29 青磁（外面）、（内面）
- P L. 30 白磁（外面）、（内面）

第Ⅰ章 これまでの経過と調査の方法

1 これまでの経過

(1) 調査に至る経過

南国市岩村地区において、平成6年度より高知県三大河川の一つである物部川の右岸の農地50.6haを対象とした岩村地区県営担い手育成基盤整備事業が開始され、狭隘で不整形な農地の区画整理や統合、農道・用排水路等の系統的な整備を進め、近代的な農地への転換を図っている。

この事業対象地域内には岩村土居城跡が存在することから、南国市教育委員会は、平成6年度に城跡周辺の遺跡の範囲確認のための試掘調査（試掘面積205m²）を実施した。その結果、弥生時代後期の堅穴住居址・溝跡・柱穴、奈良～平安時代の溝跡・柱穴、室町～戦国時代の井戸跡・柱穴・土坑等、近世の溝跡等が検出された。このことから、この地に弥生時代～近世にかけての複合遺跡が確認され、岩村土居城跡と合わせて岩村遺跡群と名付けられた。

南国市教育委員会は、遺跡の持つ重要性に照らし、開発部局に対してその保護と調和のとれた開発行為の実施について数次にわたる協議を重ね、特に遺跡部分の削平面積については極力少なくするよう工法などの検討を求めてきた。そして、道路・水路建設予定地、および農地削平地等の止むを得ず遺跡が破壊されるおそれのある区域については記録保存のための本調査を行うこととなった。

調査は、南国市が高知県（南国耕地事務所）の委託を受け、南国市教育委員会が調査主体となり、高知県教育委員会並びに高知県文化財団埋蔵文化財センターの指導のもと、平成7年度より4ヶ年計画で行うことになった。

(2) 平成7年度の調査 (Fig. 2)

平成7年度の調査は、平成7年9月29日から平成8年2月7日まで実施した。調査区については便宜上、現在の水田や畑の畦畔をそのまま利用して任意にI区(1,561m²)、II区(784m²)を設定した。

I区からは、調査区西方隅で、南北に伸びる2条の重複している堀が検出された。この堀は、15世紀代、18～19世紀代という2時期に機能していた遺構であることが出土遺物から判明し、中世末、近世における屋敷地を囲む堀としての性格を与えることができた。

II区では弥生時代後期の堅穴住居址2棟、古墳時代初頭の堅穴住居址1棟が検出され、古墳時代の住居址より鉢としては県下初の出土例となる吉備撇入土器が出土した。

平成7年度は、I区についての報告書を刊行した。（南国市教育委員会「岩村地区県営圃場に伴う岩村遺跡群発掘調査概要」1996.3）

(3) 平成8年度の調査 (Fig. 2)

平成8年度の調査は、平成8年9月11日から平成9年2月10日まで実施した。調査区は新たにIII区(390m²)、IV区(650m²)、V区(500m²)、VI区の一部(200m²)、VII区の一部(1,490m²)、VIII区の一部(270m²)、IX区(410m²)を設定した。

III区からは、15世紀代の溝1条が検出された。IV区からは、遺構は検出されなかった。V区からは、弥生時代後期の竪穴状遺構1基が検出された。VI区からは弥生時代前期の土坑2基、後期の竪穴住居2棟等が検出された。VII区は岩村土居城跡の掘推定地の調査であり、内堀、外堀の2重の堀が巡っていることが確認された。VIII区からは弥生時代後期の溝4条、IX区からは岩村土居城跡の西側の堀と思われる溝が検出された。

平成8年度は、II・III・IV区の報告書を刊行した。(南国市教育委員会『岩村遺跡群II - 岩村地区県営担い手育成基盤整備事業に伴う発掘調査報告書 -』1997.3)

2 調査の方法

各調査区ともに遺構検出面は浅く、耕作土直下である。調査の手順としては、耕作土を重機を用いて除去した後、手作業で遺構の検出、完掘作業を行った。包含層遺物の取上げ、遺構の実測については、公共座標に基づいて調査区全体に4m方眼をかけ、東西方向に1, 2, 3, ……、南北方向にA, B, C, ……、のNo.を付して、地点の記録および実測を行った。平面測量および地層断面図については、20分の1を基本に適宜任意の縮尺を用いた。図中の方位は全て磁北を用いた。遺構のナンバーリングについては、便宜上各調査区ごとに付した。

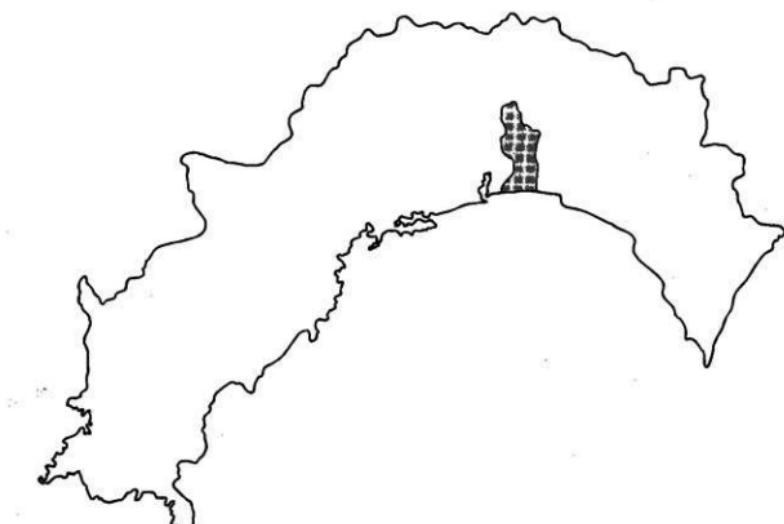


Fig.1 南国市位置図



Fig.2 岩村遺跡群調査区位置図

第Ⅱ章 周辺の地理的、歴史的環境

1 地理的環境

岩村遺跡群は、南国市の東端、県下三大河川の一つであり、剣山系の白髪山に源を発し、流路延長70.5kmの物部川河口から約3km程上流にのぼった西岸に位置し、現地表は、海拔19.8m前後を測る。岩村遺跡群の所在する南国市は、東西に弧状の長い海岸線を有する高知県のほぼ中央部にあり、県下最大の平野である高知平野の東部に位置する。高知平野の中でも、南国市、土佐山田町、野市町及びその周辺の平野部は、香美郡と長岡郡に属していたことから、香長平野とも呼ばれており、本県最大の穀倉地帯をほこっている。南国市の地形は北方山地と丘陵群、それに香長平野を含めた平野部に区分される。

香長平野はところによって微高地と低地がかなり複雑に交錯するため、平野の等高線は部分的に乱れているが、土佐山田町神母木を中心にはば同心円状に配列している。このように谷の出口を頂点とする半円錐形の堆積地形を扇状地といふ。香長平野は隆起と沈降を繰り返しつつ、坂折山、介良山、船岡山、吾岡山等の丘陵間の低地、もしくは多島式内湾が物部川、国分川等による扇状地や三角州によって埋められたものであり、この堆積作用は現在もなお続いている。物部川による扇状地の傾斜は相対的に緩く、面積の規模もさほど大きくなりが、本県では最大の扇状地である。

2 歴史的環境

南国市は、高知平野東部の大半を占め、遺跡の密度は県下で最も高く、各時代の遺跡の所在が知られており、近世以前は土佐の中心地として栄えた地域であった。

旧石器時代の遺跡は、奥谷南遺跡が存在する。ここは全国でも例の少ない旧石器時代の岩陰遺跡であり、ナイフ形石器・スクレイパー・細石器・尖頭器など多量の石器が出土した。

縄文時代の遺跡は県西部の四万十川流域に比べ少なく、数ヶ所確認されているにすぎない。時期的には後期が中心である。奥谷南遺跡では、草創期の隆起線文土器・隆帶文土器が出土し、中期末から後期初頭にかけてのドングリの貯蔵穴が確認されている。柴工田遺跡からは、後期から晩期に至る土器が多量の磨製石斧と共に出土した。これらの遺跡は、丘陵部が平野部に接する地に立地しており、狩猟・採集に適した地域であった。南の平野部では田村遺跡群のLoc.47などが所在する。田村遺跡群では、後期後半の磨消縄文を中心とする土器群と共に多量の打製石斧が出土しており、低地における縄文遺跡の立地を考える上で注目される。

弥生時代になると遺跡数とその規模は、急激に発展する。稻作に適した広大な沖積平野を有することから、市域のはば全域に遺跡が展開している。なかでも田村遺跡群は、その規模において群を抜いており、弥生時代を通して高知平野における拠点的母村集落と考えられる。前期においては堅穴住居群と掘立柱建物群の存在や、水田跡などが確認されている。中期～後期にかけては集落の西方への移動がうかがわれ、土器以外にも後漢の方格規矩四神鏡片や勾玉・管玉・ガラス小玉などが出土しており、引き続き高知平野における拠点的集落であったと考えられる。その一方、前期後半以後になると集落が拡散し、平野部ばかりではなく山間部にも遺跡の立地をみるようになる。弥生

時代後期になると、遺跡の立地は北部の長岡台地上に移る。堅穴住居址が発見された三島遺跡や、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての堅穴住居址が多数検出された東崎遺跡、小籠遺跡、土佐山田町のひびのき遺跡のような大規模な集落が出現していく。

古墳時代においても高知平野が遺跡分布の中心的位置を占め、土佐山田町、南国市北部の山麓部及び独立丘陵上に、6～7世紀の横穴式石室をもつ古墳が多数存在している。なかでも小蓮古墳は大型の横穴式石室をもつ円墳であり、香長平野北部を中心とする有力者の墳墓と考えられ、22基の古墳からなる県下最大の群集墳である舟岩古墳群もこの地域に造築されている。また、国分川右岸にある新改古墳は、この地域では大型に属する6世紀代の古墳であり、幅2m、長さ5m、高さ2mを測る横穴式石室からは、金環や各種馬具、直刀などが出土している。これらの山麓には、6世紀後半から7世紀以降数多くの須恵器窯が出現する。土佐国衙跡の発掘調査では6～7世紀の堅穴住居址が30棟前後検出されており、今後も調査が進むにつれ、新たに発見されるものと考えられる。

古代には、律令制度のもとでの土佐国を伝える遺跡として、比江廃寺跡や土佐国衙跡、土佐国分寺跡が所在しており、古代土佐国の政治・文化の中心地であったことを示している。比江廃寺跡は白鳳時代の寺院跡であり、塔心礎は原位置を保っていることが発掘調査により確認された。土佐国衙跡では、昭和54年度より11次にわたる確認調査が行なわれ、官衙を構成すると考えられる掘立柱建物群などが検出されているが、政庁など国衙の中心構造は確認できなかった。土佐国分寺跡では東軸に寺域を示すとみられる土塁が残されており、現状変更に伴う調査及び御蔵配置確認のための調査が行なわれ、礎石建物跡、掘立柱建物跡等が検出されている。その他、南国市域の古代の遺跡としては、田村遺跡群において平安時代前半の掘立柱建物跡群が検出されており、「田村庄」関係の遺構ではないかと考えられている。

中世になると遺跡数も増加し、分布も平野部の城館跡や周辺山麓部の山城跡等に代表されるようにはほぼ全域に渡る。これらに伴い生活域も拡散し、ほぼ現在我々が日にするような景観の基礎が形成された。田村遺跡群では、溝に囲まれた屋敷跡が31ヶ所検出されており、南北朝期に機能したもの、守護代細川氏入城後に機能したもの、長宗我部氏台頭に伴って機能していたものと3時期に分離することができる。溝は1辺30～50mの規模をもち、約半数では石組み等の井戸や屋敷墓を検出した。掘立柱建物跡は主屋とみられる大型のものが、数回にわたり建替えられ、周辺には小規模な掘立柱建物跡が付属していた。田村城館跡は14世紀～15世紀においての細川氏の居館であるが、城郭は3重の濠で囲まれた複合城郭である。郭内には区画溝や掘立柱建物跡が存在しており、外濠の幅は4m～5m、深さ3.5mを測り、この中からは土師質土器や護符が出土している。西部に位置する岡豊城跡は長宗我部氏の居城であり、礎石建物跡、石敷造構、土坑、溝、土壘石垣、階段状遺構を検出している。出土遺物からこの城の機能した時期を15世紀後半からおよそ100年間としている。その他の中世城跡では、久礼田城跡、植田城跡、細川土居城跡、岩村遺跡群の周辺では包地土居城跡(5)、徳弘土居城跡(21)、立田土居城跡(23)などが所在している。



番号	名 称	時 代	番号	名 称	時 代	番号	名 称	時 代
1	岩村遺跡群	弥生～中世	11	古流曾遺跡	古墳～平安	21	徳弘土居城跡	中世
2	岩村土居城跡	中世	12	横落遺跡	弥生～平安	22	北角田遺跡	弥生～平安
3	若宮遺跡	弥生～平安	13	桧物ヶ内遺跡	古墳～平安	23	立田土居遺跡	中世
4	埋添遺跡	古墳～中世	14	カントツリ遺跡	縄文・古墳～平安	24	修理田遺跡	弥生～平安
5	包地土居城跡	中世	15	表中内遺跡	弥生～平安	25	田村遺跡群	縄文～近世
6	芝田遺跡	古墳～中世	16	上横田遺跡	古墳～平安	26	田村城跡	中世
7	ムロカ内遺跡	弥生～中世	17	大北董跡	古墳～中世	27	千屋城跡	中世
8	屋根添遺跡	古墳	18	平杭遺跡	弥生～古墳	28	季重遺跡	古墳～近世
9	芝ノ端遺跡	古墳	19	高添遺跡	弥生～平安	29	公家ノ前遺跡	古墳～近世
10	石神遺跡	弥生～平安	20	寺ノ前遺跡	弥生～中世	30	司例田遺跡	古墳～近世

Fig.3 岩村遺跡群の位置と周辺の遺跡

第Ⅲ章 調査の成果

1 V区の調査

(1) V区の概要と基本層序

① 概要 (Fig.5)

東西約7m、南北約52m、面積500m²の調査区である。中央部の畔道により南北に2分される。北側を北区、南側を南区とする。標高は北区は20.4m前後、南区は19.9m前後を測る。両区ともに平成8年度に調査を実施した。弥生時代後期の竪穴状遺構1基、古代の土坑4基、溝5条、集石遺構1基などを検出した。

② 基本層序 (Fig.4)

調査区の中央部の南壁の東西セクションで観察した。

I層：黄茶色粘質土。床土を形成する層序である。安定した堆積を示しており、層厚15~20cmを測る。無遺物層である。

II層：黄灰色粘質土。安定した堆積を示しており、層厚10cm前後を測る。弥生土器・古代土器を多く含む。

III層：茶褐色粘質土。部分的な堆積で、層厚10cm前後を測る。部分的に焼土を含む。

IV層：濃茶色粘質土。安定した堆積を示しており、層厚20cm前後を測る。弥生土器・古代土器を最も多く含む。部分的に焼土を含む。

V層：茶灰色粘質土。弥生土器・古代土器を多く含む。

VI層：濃茶灰色シルト層。安定した堆積を示しており、層厚30cm前後を測る。無遺物層である。

a層：淡茶色粘質土。部分的な堆積で、層厚40cm前後を測る。弥生土器・古代土器を多く含む。部分的に焼土を含む。

b層：灰茶色粘質土。ピットの埋土である。

c層：淡黄茶色粘質土。ピットの埋土である。

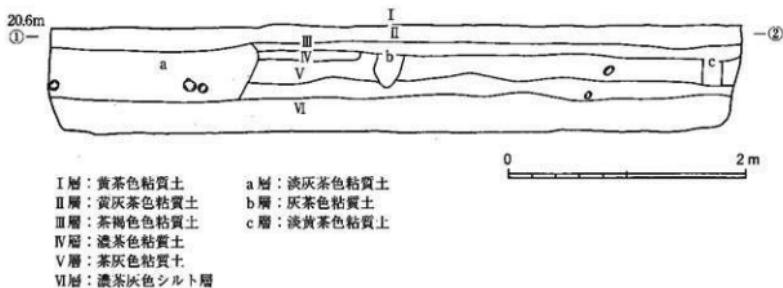


Fig.4 V区基本層序

(2) 検出遺構と遺物

① 穴状遺構

S K 1 (Fig. 6)

北区の北部に位置し、直径5m前後の不整形な円形を呈する。SK1、SK3、SD1、SD2を完掘後に検出した。検出面からの深さは、9~25cmを測り、中心部が最深である。肩部はゆるやかに立ち上がる。遺構埋土は、I層：淡茶色粘質土、II層：灰茶色砂質土、III層：黄茶色砂質土、IV層：暗灰色砂質土、V層：茶色粘質土、a層：炭化物層である。北西部隅に長軸160cm、短軸90cm、深さ8cm前後の不整形な地山層の盛土部分が存在する。柱穴はP1~P4を検出した。P1は円形を呈し、径34cm、深さ39cmを測る。P2は円形を呈し、径44cm、深さ16cmを測る。P3は円形を呈し、径30cm、深さ15cmを測る。P4は74cm×80cmの不整形な円形を呈し、深さ14cmを測る。埋土中に多量の炭化物を含む。

出土遺物は、壺、壺、鉢、高杯である。口縁部と脚部から器種を確認できるものは、壺1点、壺22点、鉢5点、高杯2点である。底部は21点出土しており、このうち平底が18点、丸底が3点である。出土遺物のうち図示できたのは、(1~13)である。(1~9)は壺であり、(10~13)は鉢である。(1)の壺は、口縁部に刻印を施しており、弥生時代前期に属するが、他のものは全て弥生時代後期に属する。これらの遺物の出土状況は、全て埋土中よりの出土であるが、壺(5)はP4の埋土中より、鉢(10)はP1の埋土中より出土している。SK1は、弥生時代後期に属するものと考えられる。

② 土坑

S K 1 (Fig. 7)

北区の北部に位置し、SD1、SD2を切っている。長軸356cm、短軸200cmの楕円形を呈し、深さは18cmを測る。埋土は灰褐色粘質土の単純一層である。遺物は埋土中より土師器、須恵器の細片が出土しているが、図示できたのは土錐(14・15)のみである。

S K 2 (Fig. 7)

北区の南端に位置し、SD1を切っている。径170cmの円形を呈し、深さは57cmを測る。埋土は灰褐色粘質土の単純一層であり、拳大の礫を含む。遺物は土師器、須恵器の細片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。

S K 3 (Fig. 7)

北区の北部に位置し、SD2を切っている。長軸96cm、短軸88cmの楕円形を呈し、深さ22cmを測る。埋土は、灰茶色粘質土の単純一層である。遺物は弥生土器の細片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。

S K 4 (Fig. 7)

北区の南部に位置する。径132cmの円形を呈し、深さ17cmを測る。埋土は淡灰色粘質土の単純一層である。床面には人頭大の礫が2個置かれていた。遺物は弥生土器、土師器、須恵器の細片が少量出土したが、図示できるものはなかった。

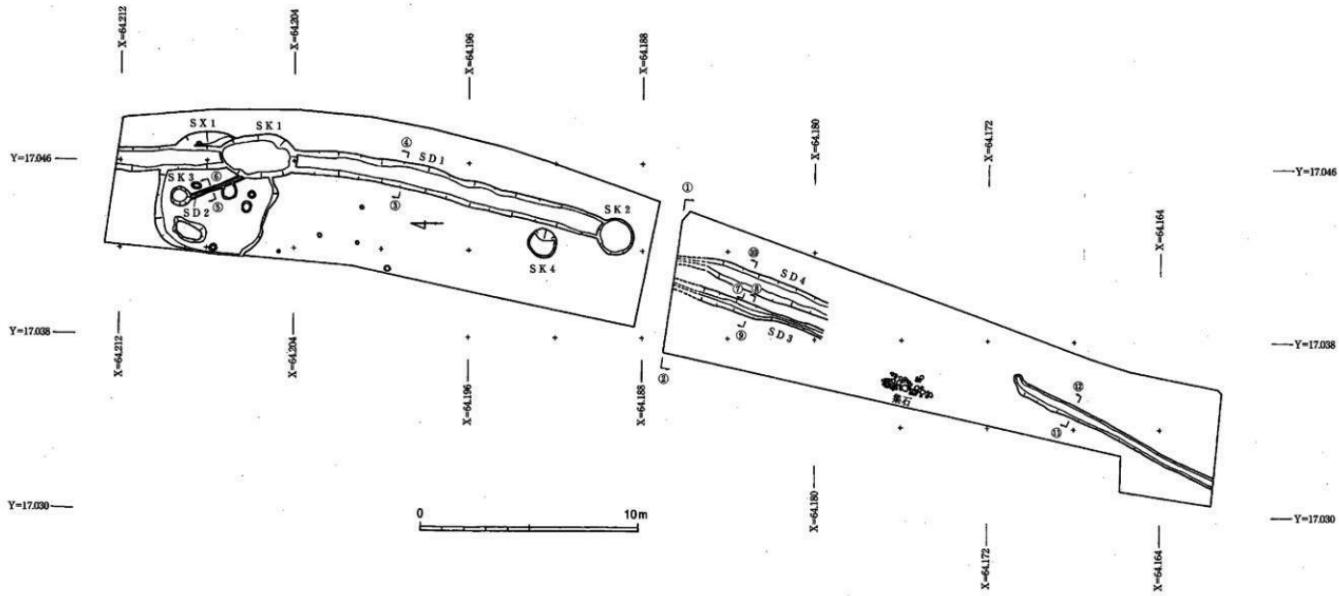


Fig.5 V区 検出遺構全体図およびセクション位置図

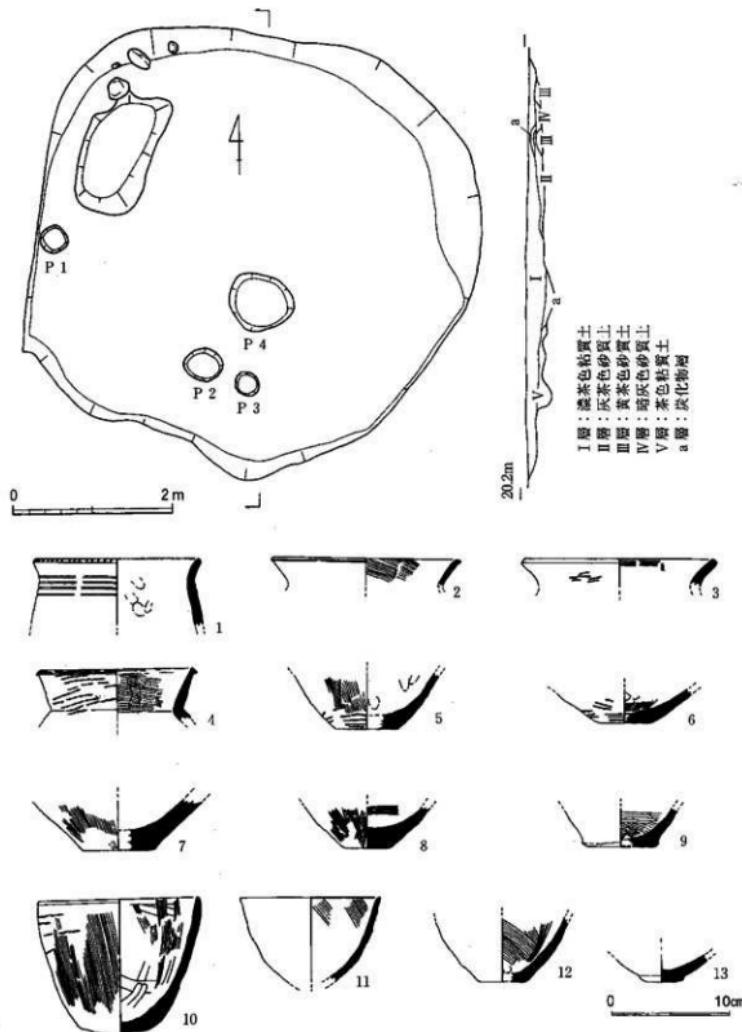


Fig.6 SX 1平面・セクション図・出土遺物実測図

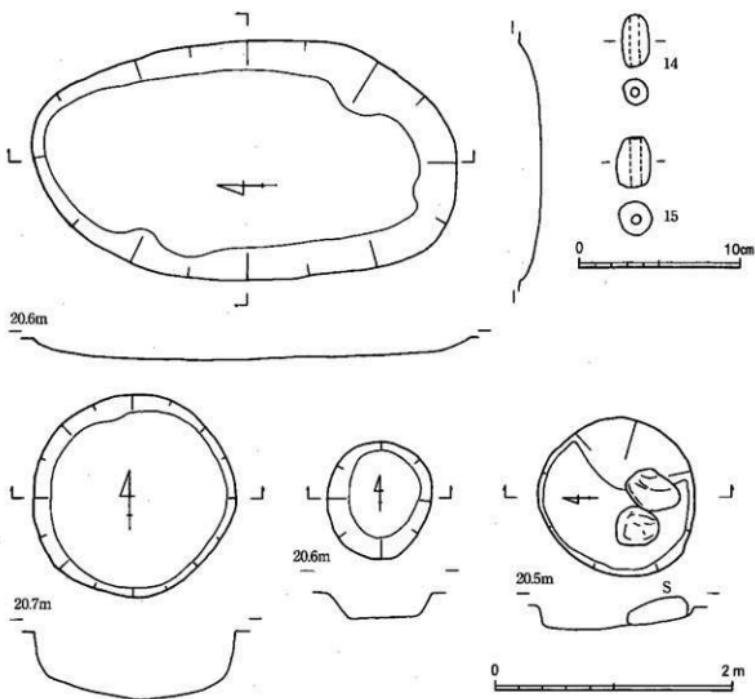


Fig.7 SK 1～4 平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

③ 溝

S D 1 (Fig. 8)

北区の東部を南北方向に延びる溝であり、SK 1、SK 2によって切られる。確認延長は21.5m、検出規模は幅120cm、深さ36cmを測る。埋土は灰茶色粘質土の単純一層である。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器の細片が多量出土したが、図示できたのは土師器壺(16~19)、土師器壇(20)、土師器鍋(21)、須恵器壺(22)、須恵器壇(23)、須恵器壺(24)、篠鉢(25)である。

S D 2 (Fig. 8)

北区の北部に位置し、北西から南東方向に延びる溝であり、SK 1、SK 3に切られる。確認延長は2.5m、検出規模は幅16cm、深さ8cmを測る。埋土は灰褐色粘質土の単純一層である。遺物は出土していない。

S D 3 (Fig. 8)

南区の北部に位置し、北東から南西方向にSD 4と並行して延びる溝である。確認延長は6.2m、検出規模は幅64cm、深さ12cmを測る。埋土は灰褐色粘質土の単純一層である。遺物は出土していない。

S D 4 (Fig. 8)

南区の北部に位置し、北東から南西方向にSD 3と並行して延びる溝である。確認延長は6.3m、検出規模は幅96cm、深さ12cmを測る。埋土は灰褐色粘質土の単純一層である。遺物は須恵器、土師器片が僅かに出土しているが、図示できたのは須恵器壺(26)のみである。

S D 5 (Fig. 8)

南区の南部に位置し、北東から南西方向に延びる溝である。確認延長は8.9m、幅66cm、深さ18cmを測る。埋土は褐灰色粘質土の単純一層で、床面には一面に小礫が一面に敷き詰められている。遺物は須恵器・土師器片が僅かに出土しているが、図示できるものはなかった。

④ 集石 (Fig. 8)

南区中央部西側に位置する。集石の規模は、南北に2.5m、東西に1.5mである。拳大~人頭大の礫で構成されている。須恵器壺(27)が出土している。

⑤ 包含層出土の遺物 (Fig. 9~11)

遺構外の遺物包含層からは、多量の弥生土器、土師器、須恵器等が出土した。図示できたのは、弥生壺(28~39・48~51)、弥生壺(40~47・52~60)、弥生鉢(61~64)、弥生高壺(65)、弥生支脚(66)、土師器皿(67~68)、土師器蓋(69)、土師器壺(70~82)、土師器壇(83~93)、土師器高壺(94~95)、土師器壺(96)、土師器壺(97~98)、土師器鍋(99)、土師器羽釜(100~101)、須恵器壺(102~104)、須恵器壺(105~106)、須恵器壺(107~108)、綠釉壺(109~115)、青磁碗(116)、白磁碗(117)、銅碗(118)、砾石(119~120)、備前擂鉢(121)、土錐(122~136)である。

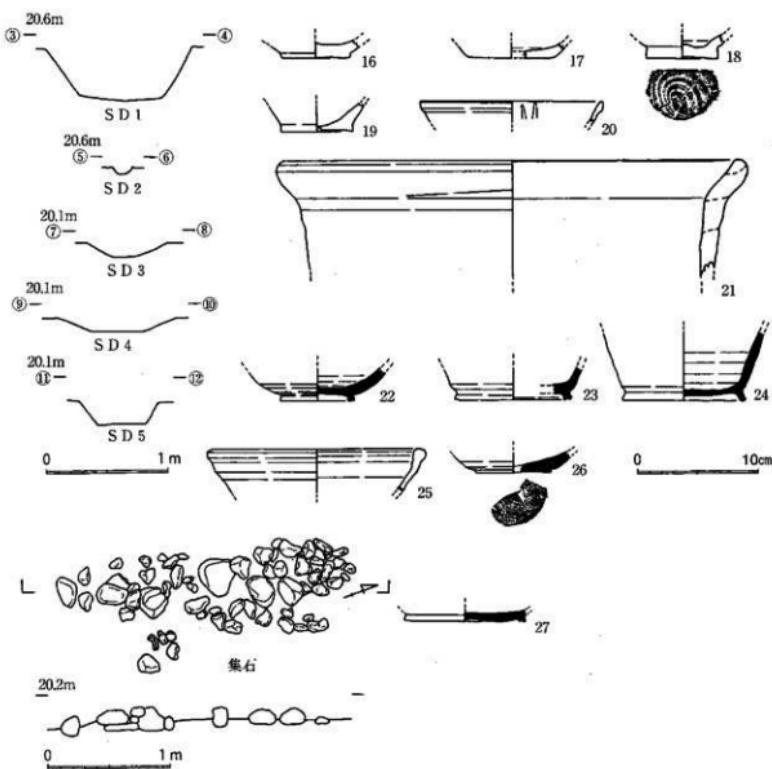


Fig.8 SD 1～5 エレベーション図 集石遺構平面・エレベーション図出土遺物実測図

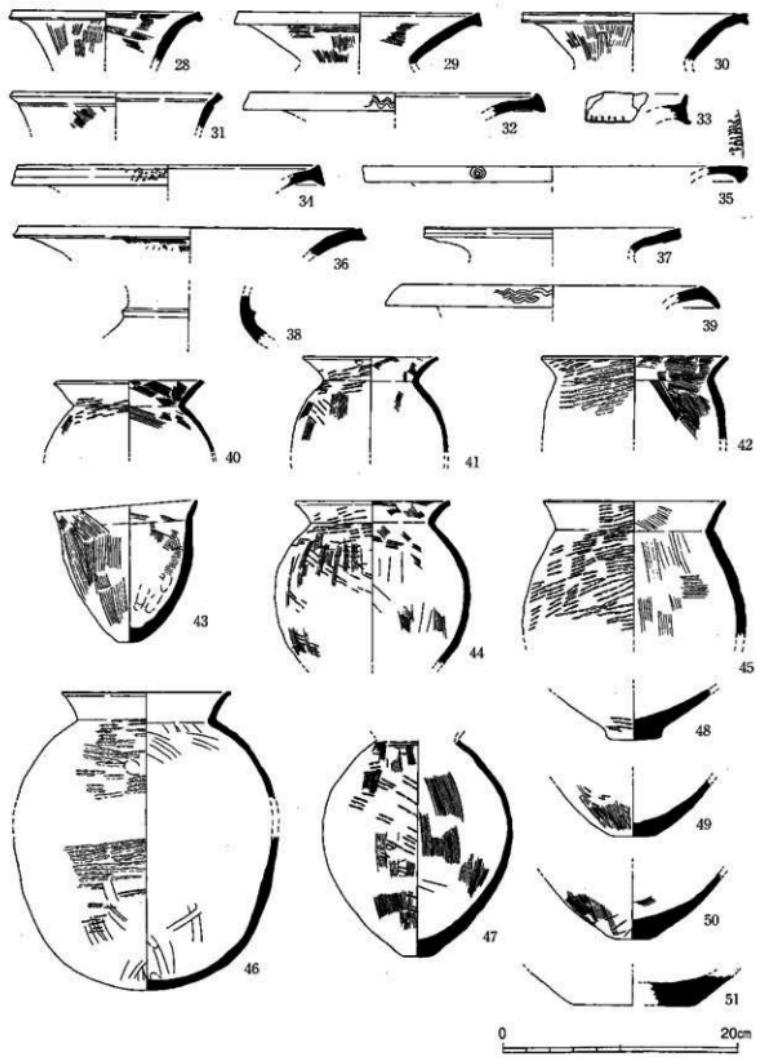


Fig.9 包含層出土の造物実測図

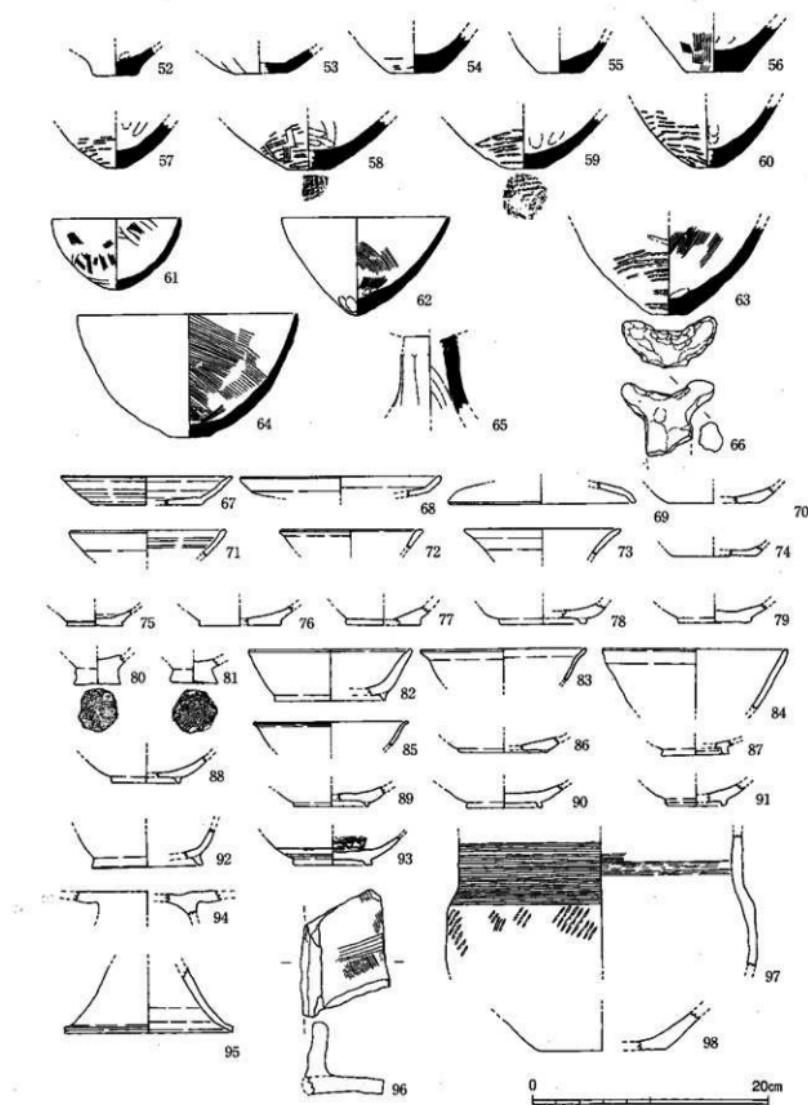


Fig.10 包含層出土の遺物実測図

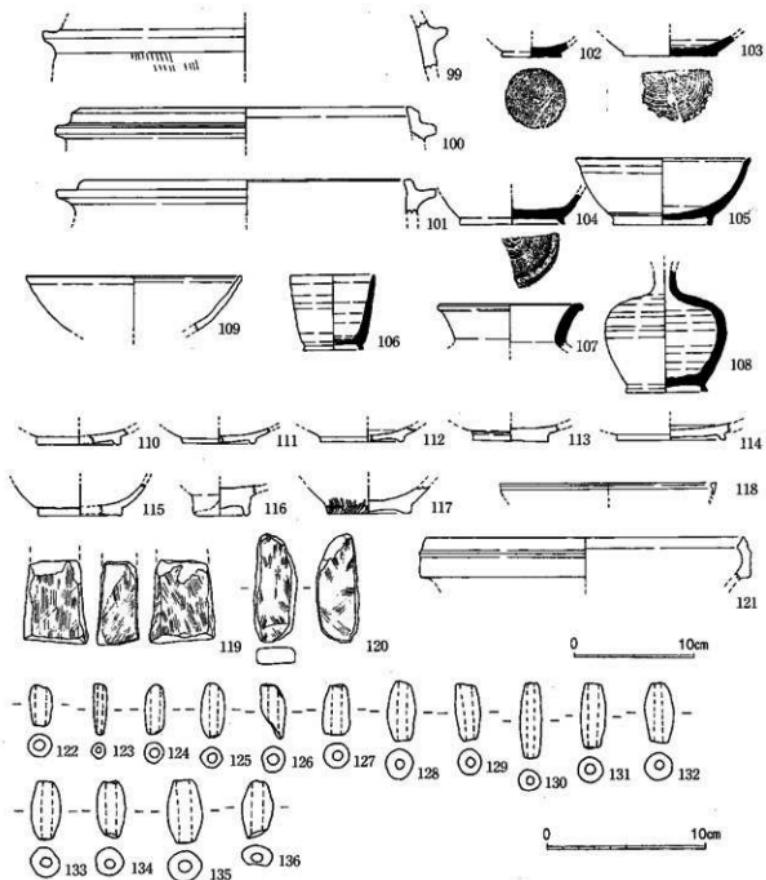


Fig.11 包含層出土の遺物実測図

2 VII・IX区の調査

(1) 調査区の概要と調査の方法 (Fig.12)

岩村土居城跡の東側には土塁の外側に沿って狭長地割の水田があり、従来より堀の存在が推定されていた。この水出に道路および水路を建設する計画があがつことにより調査を行うに至ったのがVII・IX区である。

平成8年度に城域の東側を東西約9m、南北約81m、土塁の北側外周を約3m幅で全面調査した。調査面積は1,490m²である。必要な箇所については20分の1のセクション図をとり、平面図は100分の1の平板測量により作成した。また、城域西側の堀の存在を確認するため3ヶ所にトレーニングを設定した。これをIX区とする。調査面積は410m²である。

平成9年度は土塁北側に道路を建設する計画が新たにあがつことにより、7ヶ所にトレーニングを設定した。トレーニングの合計面積は418m²である。

VII・IX区検出遺構全体図 (Fig.12) は、8・9年度作成の平面図と7年度作成の岩村土居城土界跡（北）平面図（南国市教育委員会「岩村地区県営圃場に伴う岩村遺跡群発掘調査概要」1996-3に添付）を合成したものである。岡中東側の土塁を土塁A、西側の土塁を土塁Bとし、土塁Aの東端以南の調査区をVII-1区、以北をVII-2区とする。

(2) VII-1区の調査

東西約9m、南北約81mの調査区であり、ほぼ全域で堀を検出した。堀は2条検出され、西側の堀を内堀、東側の堀を外堀とする。内堀と外堀は約4m間隔で南北に並行して延び、調査区北部で連結する。

① 内堀

調査区の全域で検出し、確認延長は約88mである。西側のプランは調査区外のため確認できなかつた。そのため調査区北側を一部西方へ拡張し、その断面を観察した。セクション⑪-⑫の検出面で幅4.6m、深さ1.7mを測り、セクション⑤-⑥の検出面で幅4.9m、深さ1.8mを測る。断面は逆台形を呈し、肩部は約40~45度で立ち上がる。セクション③-④、⑤-⑥、⑦-⑧などでは最下層が一段深く掘込まれているが、これは溝さらえの跡と推定される。中層から上は大小の礫を含んだ粘質土とシルトが互層に堆積し、下層には青灰色の粘土が堆積している。

調査区北端のセクション⑬-⑭の検出面では幅3.9m、深さ1.8mを測る。底部は狹まり、断面は三角形に近い形となる。堀は土塁と接して途切れると推定されるが、近世の墓があり確認できなかつた。

調査区中央部セクション⑤-⑥、⑦-⑧、⑨-⑩付近では下層より上師器の皿・壺・鍋、瓦器の鏡・擂鉢・備前焼の壺・壺・擂鉢、龍泉窯の青磁、白磁の皿・碗など14~15世紀の遺物が集中して出土している。また堀は弥生上器を包含する黄褐色シルト層を掘削して築造しており、上層から中層にかけては多量の弥生上器が出土している。

調査区南端のコーナー部 (Fig.13) での堆積状況は他と全く異なる様相を呈する。埋土中および床面に人頭大の河原石が大量に堆積しており、遺物は全く出土しなかつた。

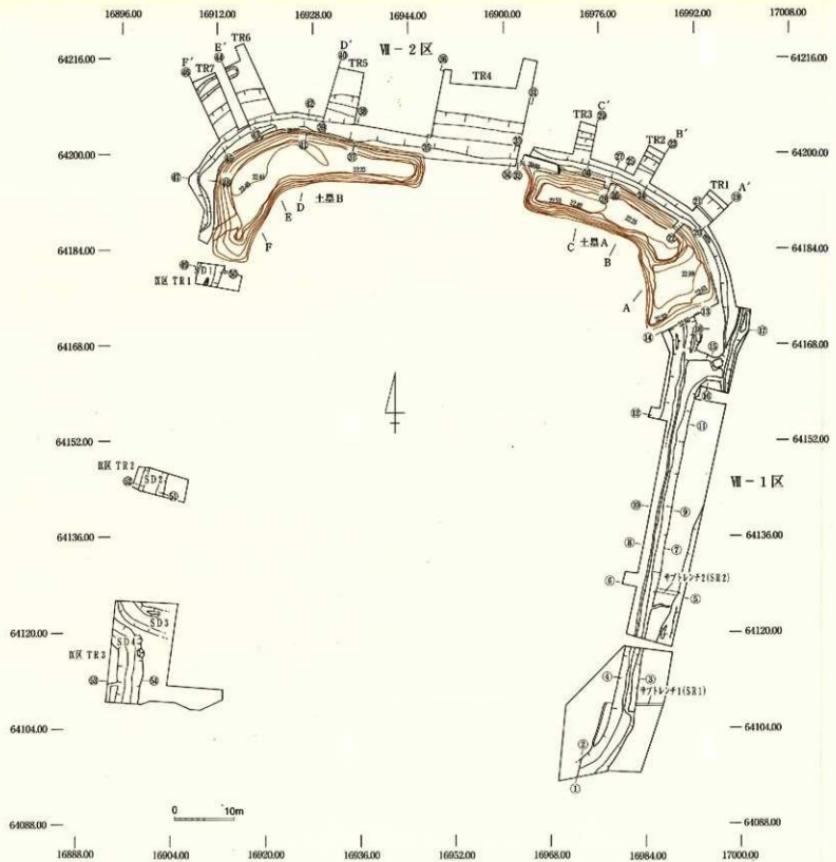


Fig.12 VII区・VIII区 全体図



Fig.13 南部集石平面図・エレベーション図

② 外堀

VII-1区での確認延長は、68.8mである。西側のプランがわずかに検出できたのみで、東側は調査区外のため確認できなかった。しかしながら調査区北部で内堀と連結した後、VII-2区へと延びることから、VII-2区の堀と同規模を有すると推定される。

③ 平坦部

内堀と外堀の間には幅約4mの平坦部がある。平坦といつても、東から西（外堀から内堀）へわずかに上がっており、内堀東側検出面と外堀西側検出面では30~50cm前後の比高がある（セクション⑤-⑥では36cmを測る）。二ヶ所でサブトレーンチを開いたところ、黄褐色のシルトないし砂層で構成されており、旧物部川による自然流路的様相を示している（SR1、SR2）。このサブトレーンチからは内堀と同じく弥生後期の土器が多く出土しており、堀が弥生後期の包含層を掘削して築造されたことが推定される。

（2）VII-2区の調査

平成8年度に土星の外周に沿って約3m幅で約106mに渡って調査し、外堀の南側のプランを検出した。そして平成9年度に7ヶ所にトレーンチを設定し、外堀北側のプランを検出した。

① 土星

岩村土居城跡の北域を区画する2基の土星が現存する。東側の土星を土星A、西側の土星を土星Bとする。両者はL字状に屈曲し、ほぼ左右対称に配置されている。土星AとBの間は約17.4mにわたって開口する。近世以降この土星は墓地として利用され、その数は土星Aで38基、土星Bで62基にのぼる。その際に土星Aの東側では削平され一段低い平坦部が形成されているが、その他の部分は等高線が並行に走っていることから旧地形を保っていると考えられる。

土星Aの幅は8.4~12.4m、主軸の延長は36.4mを測る。裾部と最高部との比高は2.2mを測る。土星Bの幅は5.6~11.2m、主軸の延長は45mを測る。裾部と最高部との比高は1.8mを測る。土星A、Bともに上部に平坦部を形成し、断面は台形を呈する。

② 外堀

VII-1区より土星A、Bの外周を巡って延びる。VII-2区での確認延長は約116.4mであり、VII-1区で確認された分を合わせると185.2mにもおよぶ。TR4東壁（セクション⑩-⑪）での幅は5.3m、検出面よりの深さは2.2m、土星頂部と堀底部との比高は4.8mを測る。断面は逆台形を呈し、肩部は約50度で立ち上がる。埋土は下層に青灰色の粘土層が厚く堆積し、最大で1.8mを測る。中層から上に堆積している粘質土に含まれる礫の量は、VII-1区の内堀に比べて少ない。エレベーションA-A'~F-F'は各トレーンチとその延長上の土星のエレベーションを合成したものである。それによると、土星裾部では明確な平坦部を形成せずにそのまま堀へとつながっている。例外的に土星Bの屈曲部（セクション⑫-⑬）では約2.8mの平坦部が張り出しており、この地点で堀が大きく湾曲している。

遺物は、土師器、備前焼、陶磁器などがわずかに出土しているが、その多くは上層部よりの出土である。

② 溝

S D 1

外堀の北側を東西に延び、TR 6、7で確認された。確認延長は8m、幅1.8m、深さ76cmを測る。東側端部外周に拳太の礫を巡らす。遺物は出土していない。外堀に付随する施設と考えられる。

(3) IX区の調査

城域西側では、調査期間の都合上、3ヶ所にトレンチを設定し、堀の存在の有無を確認するにとどめた。4ヶ所で堀と考えられる溝を検出した。位置関係からSD 1~3は内堀、SD 4は外堀の一部であると思われるが、Ⅸ区の堀とのつながりが明確でない以上断言はできない。今後の研究課題としたい。

出土遺物の多くが上層よりの近世陶磁器であり、IX区付近の堀は、近世に廃棄土坑として利用された可能性がある。

① 溝

S D 1

TR 1で検出された溝で、西側のプランは調査区外となり、明らかにすることはできなかった。検出面での幅は3.8m以上、深さは1.4mを測る。

S D 2

TR 2で検出された溝で、検出面での幅は4.2m、深さは1.5mを測る。

S D 3

TR 3で検出された溝で、検出面での幅は4.2m、深さは0.9mを測る。

S D 4

TR 3で検出された溝で、検出面での幅は3.7m、深さは1.2mを測る。

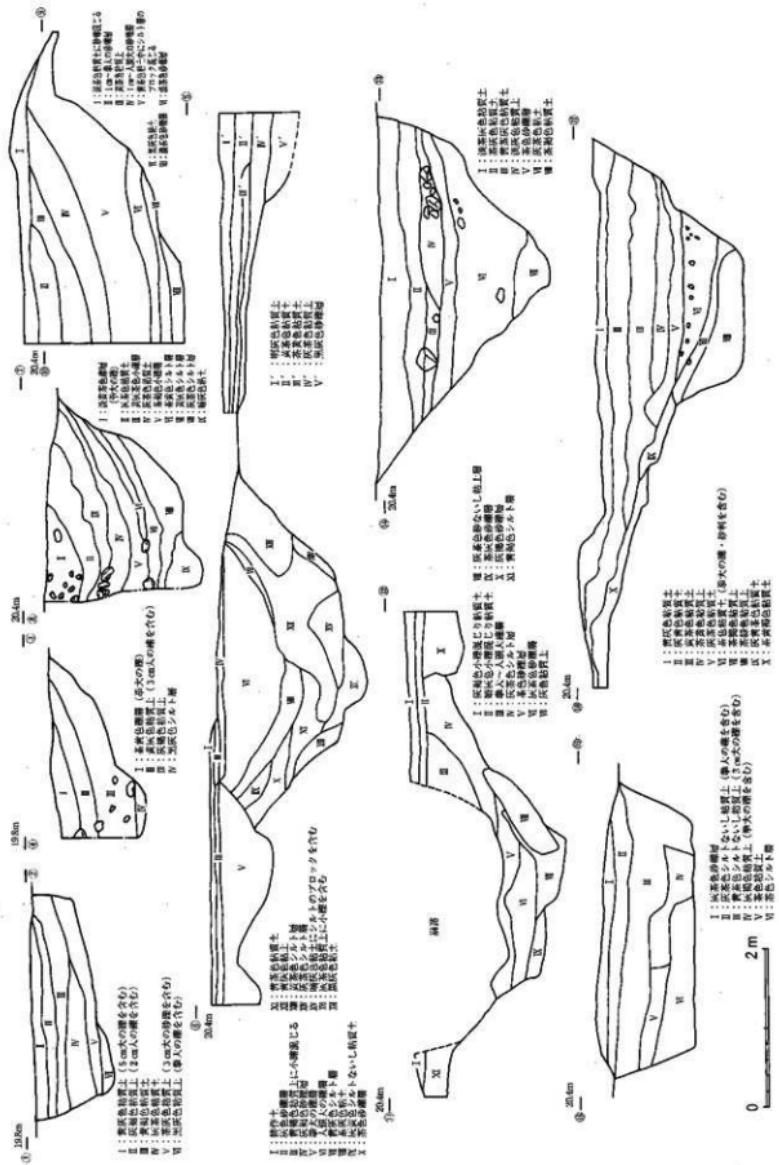


Fig.14 堀セクション図

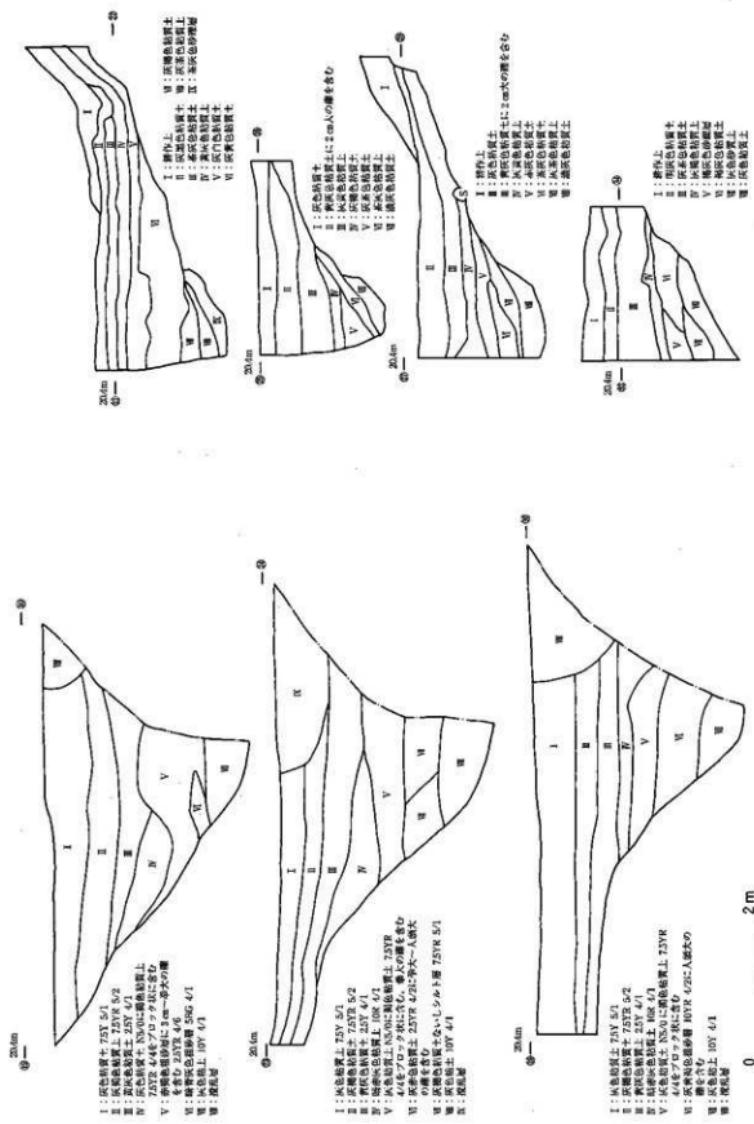


Fig.15 烟セクション図

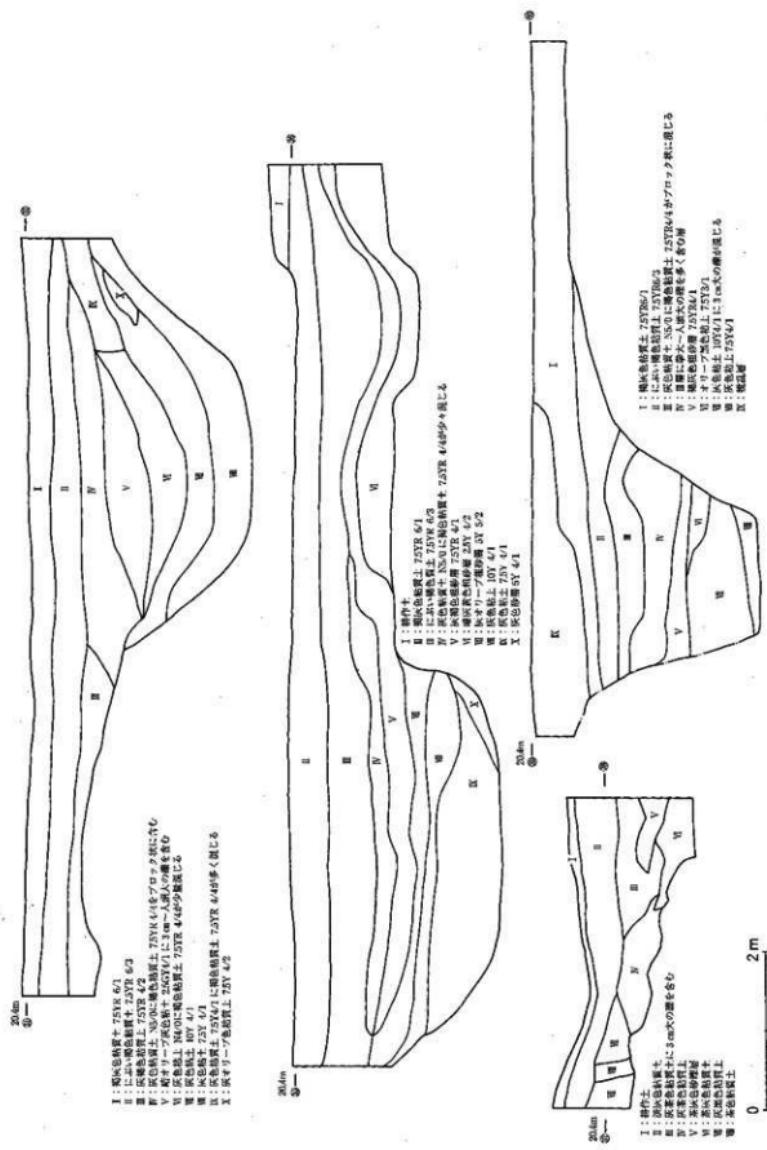


Fig.16 堀セクション図

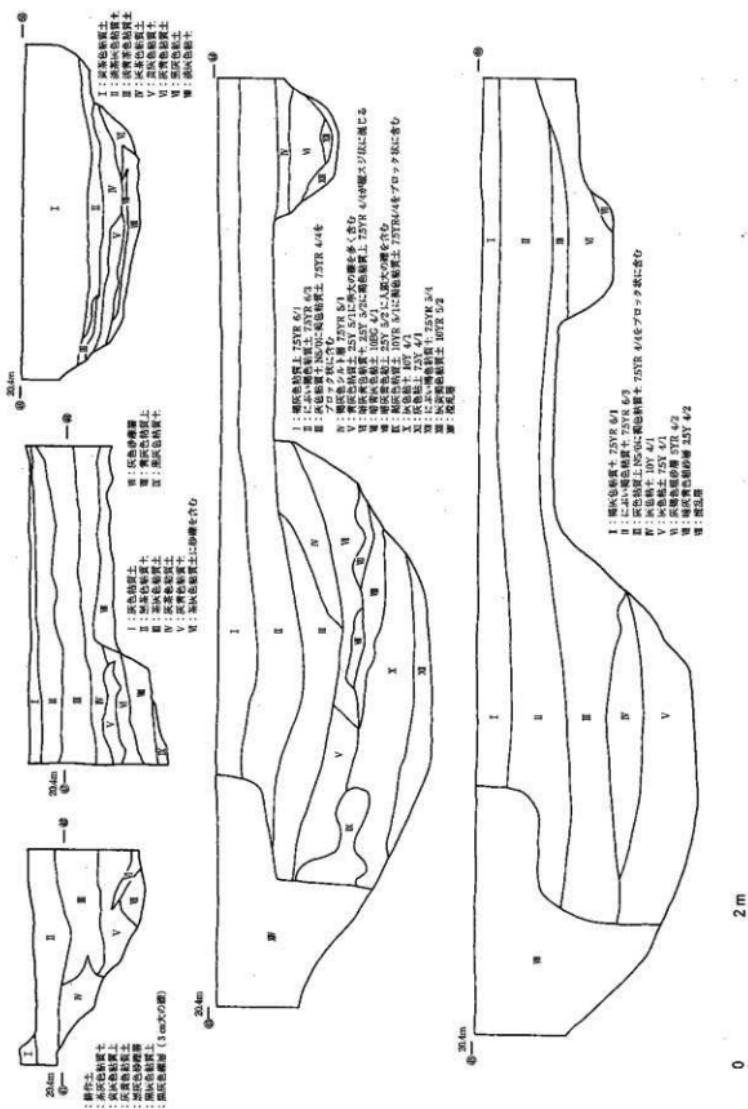


Fig.17 堀・KXS D2セクション図

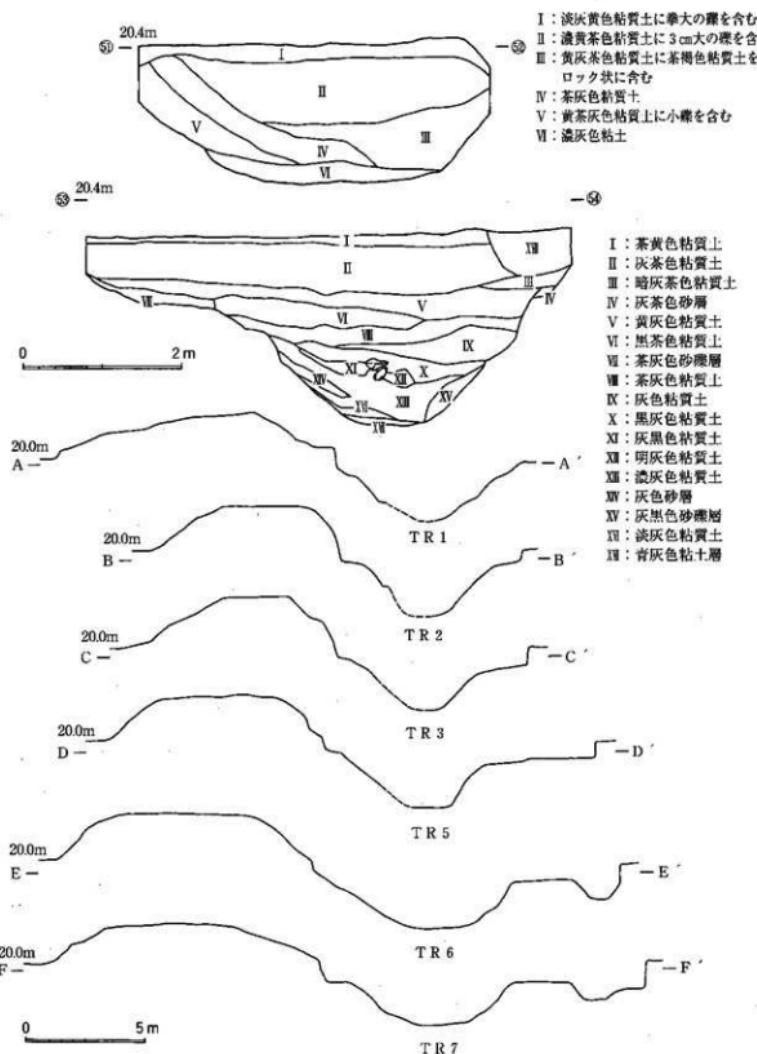


Fig.18 SD 2・4 セクション図、土壠・堀エレベーション図

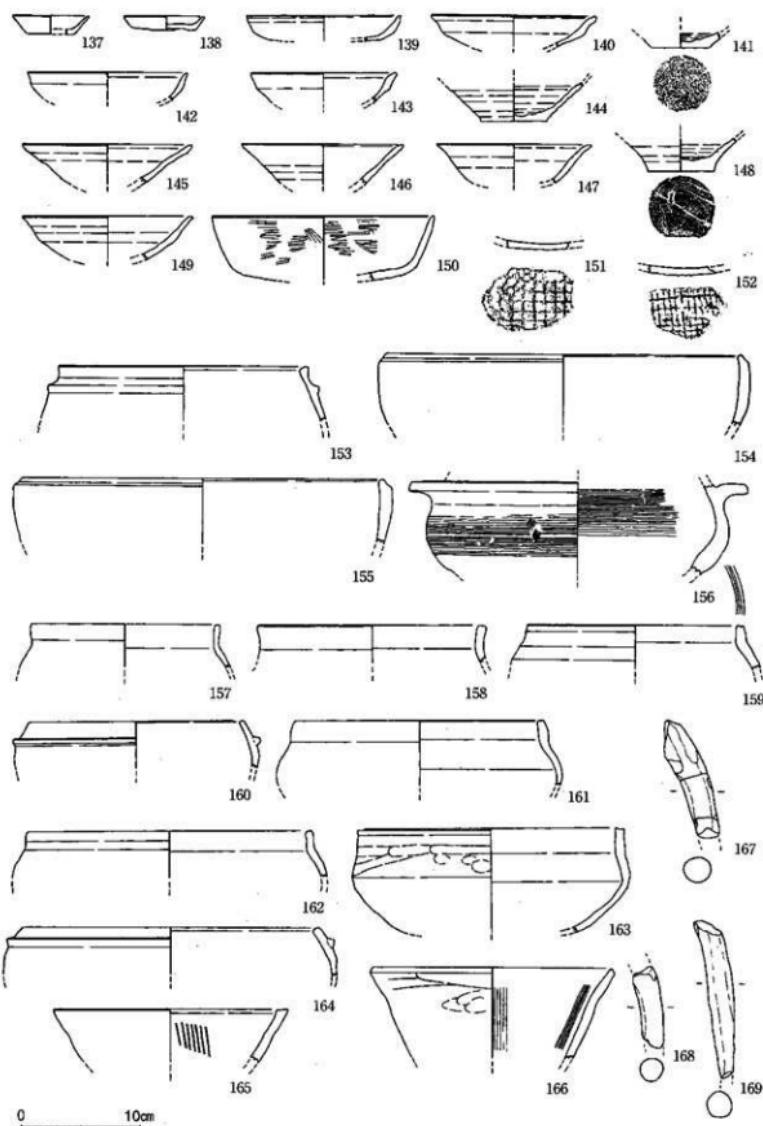


Fig.19 掘出土遺物実測図

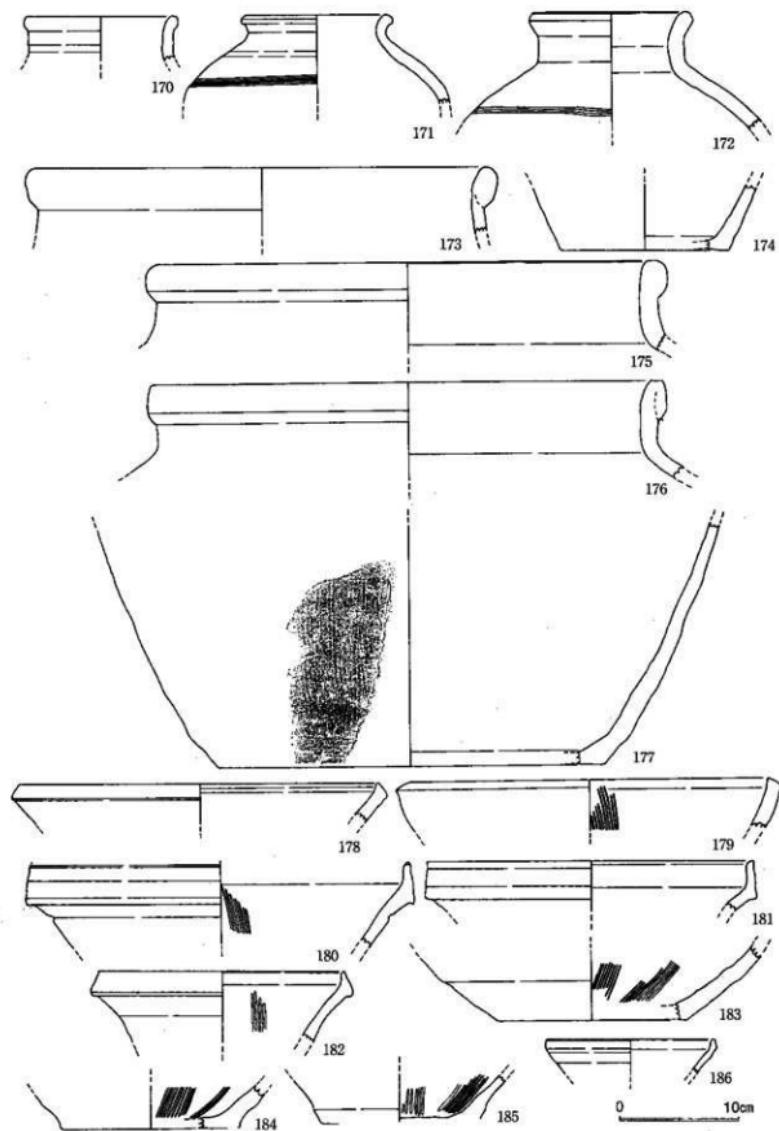


Fig.20 墓出土遗物实测图

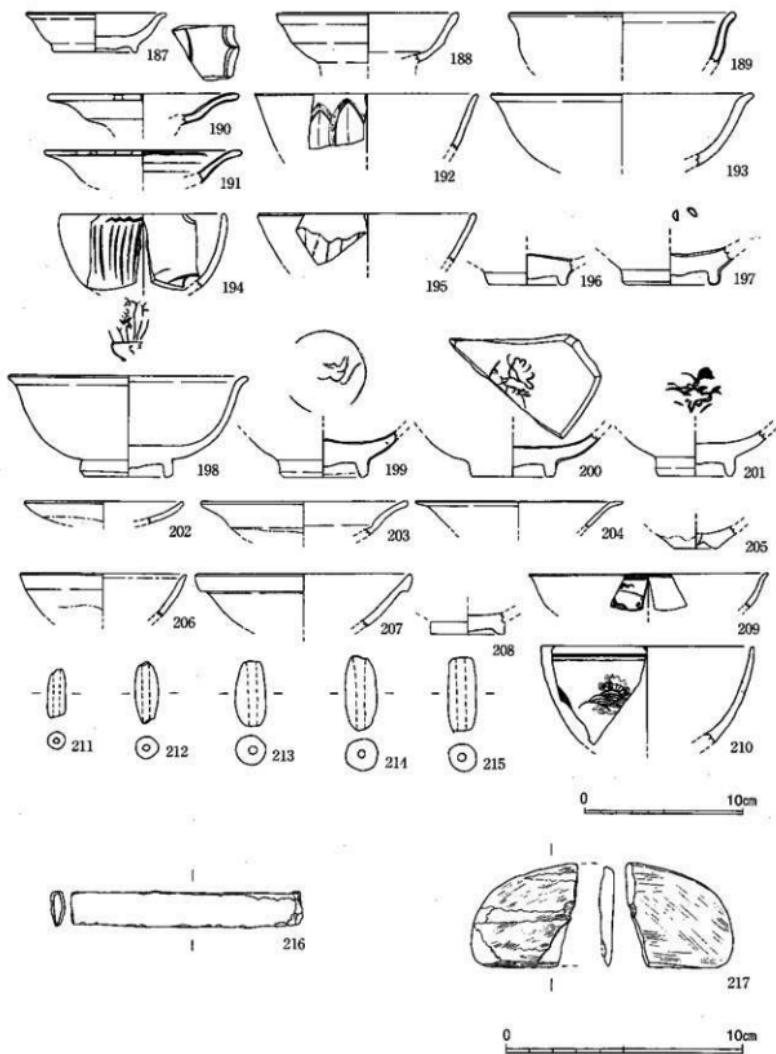


Fig.21 堀出土遺物実測図

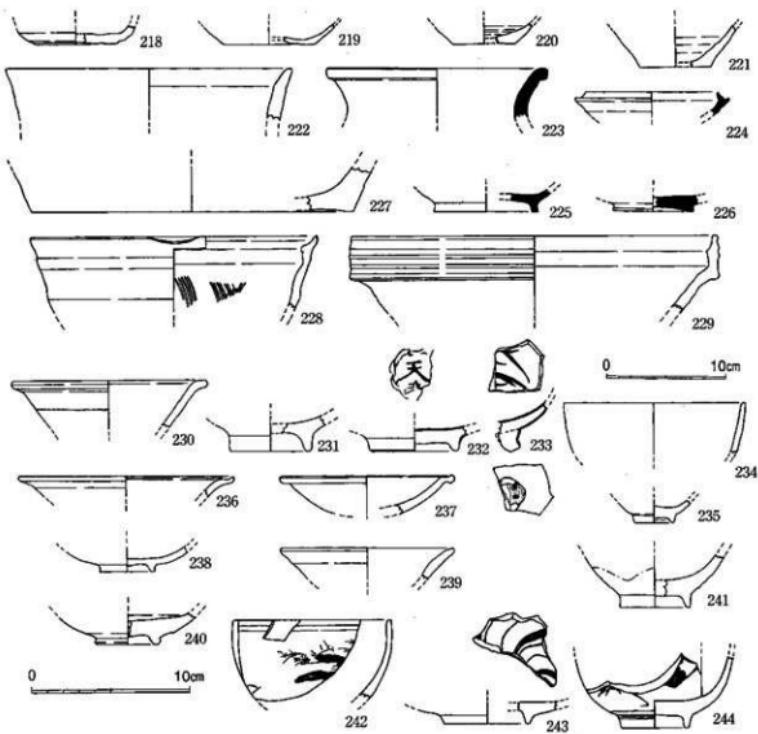


Fig.22 TR 1 ~ TR 7 出土遺物実測図

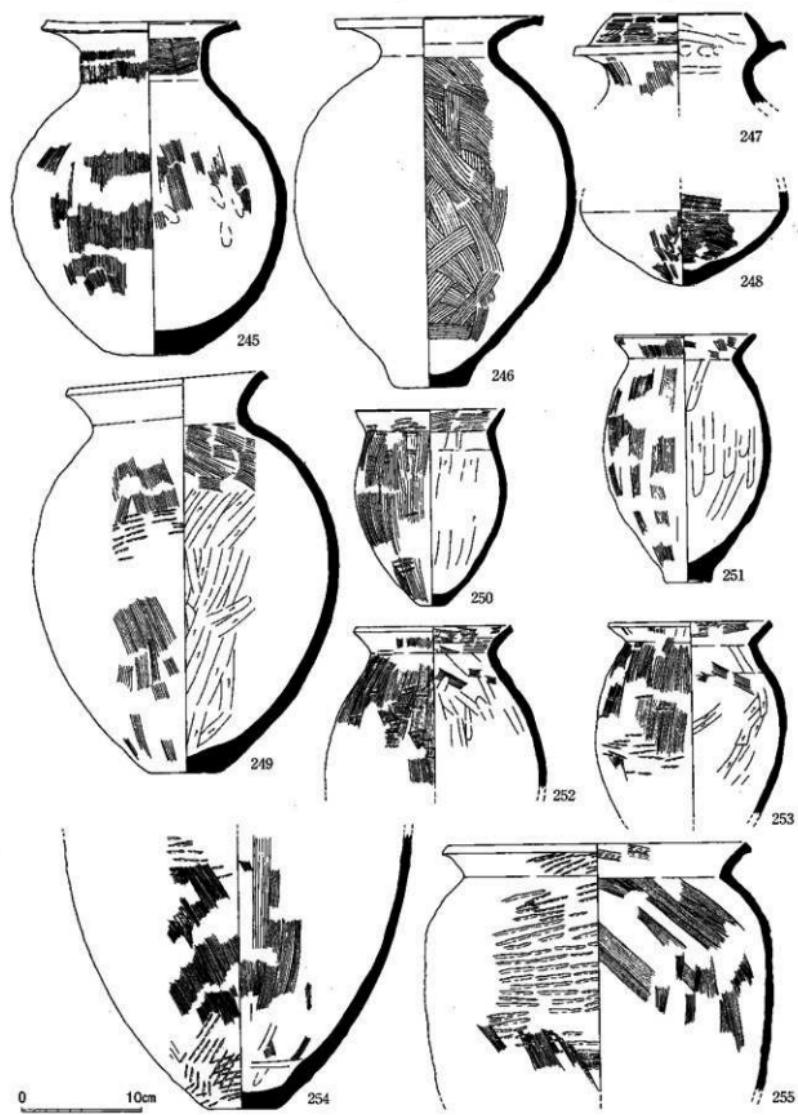


Fig.23 SR 1 出土遺物実測図

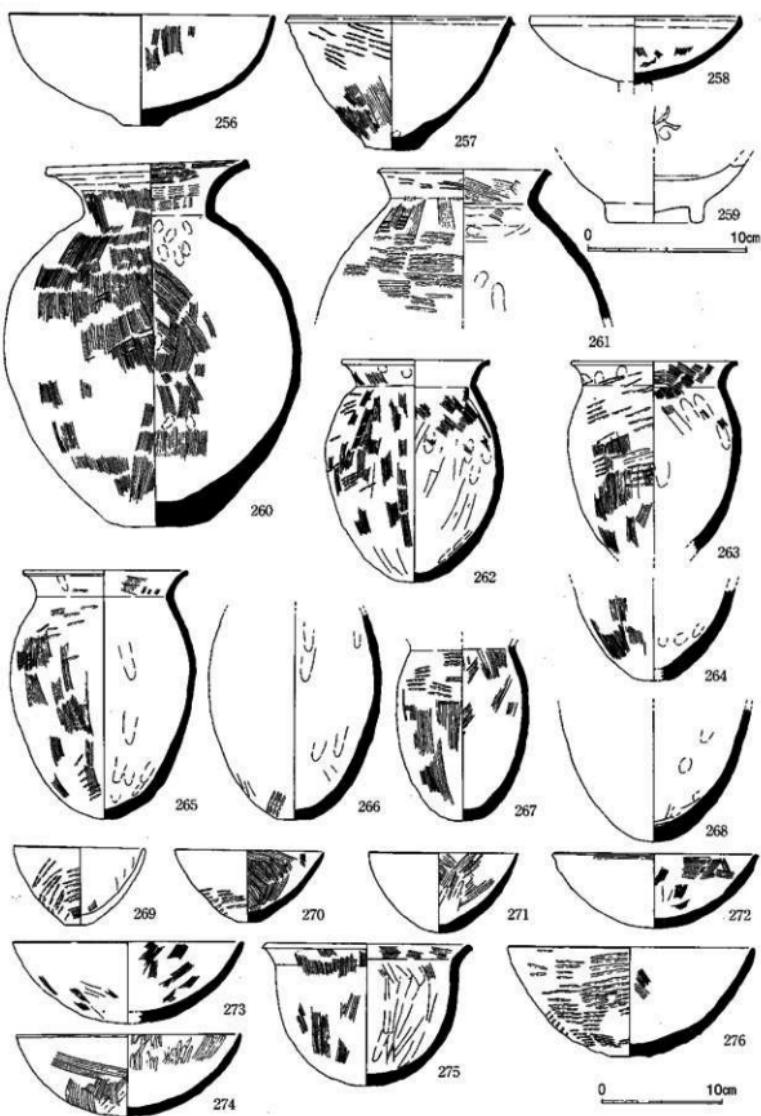


Fig.24 SR 1出土遺物(256~259)・SR 2出土遺物(260~276)実測図

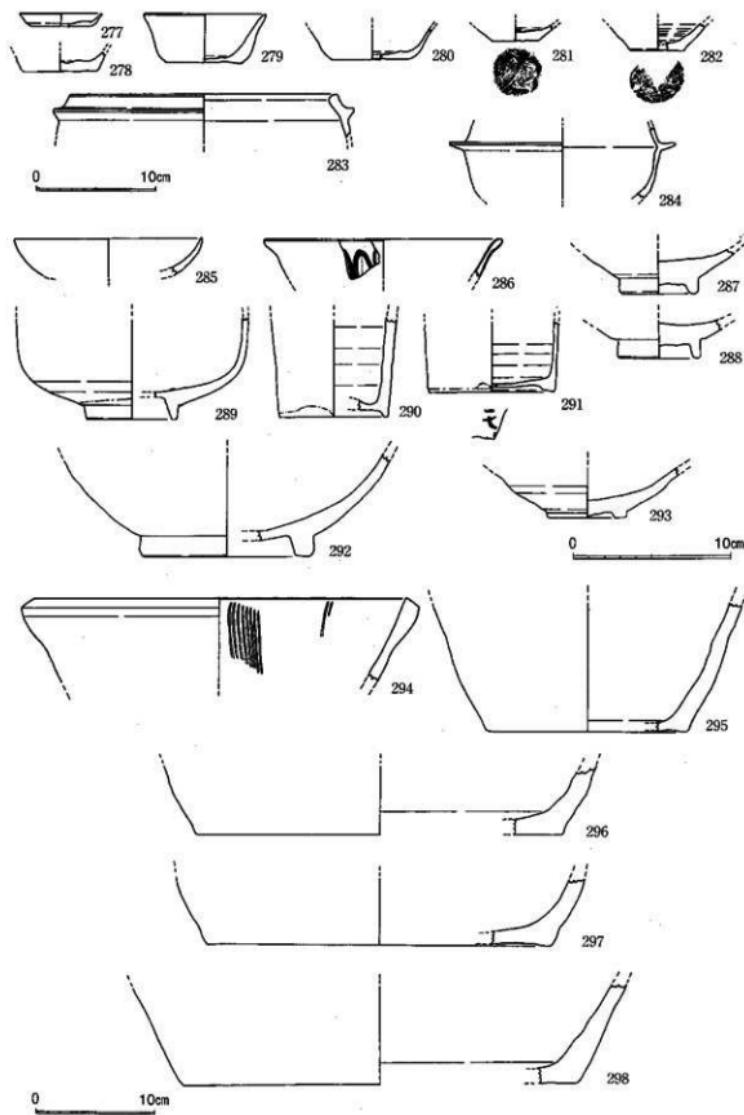


Fig.25 SD出土遺物実測図

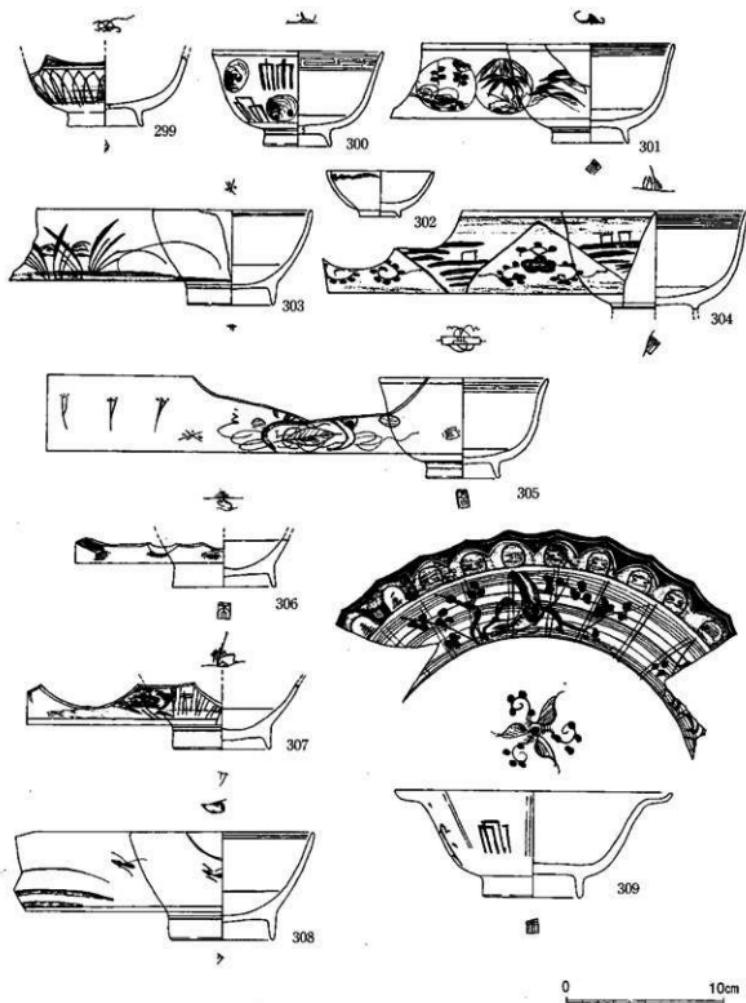


Fig.26 S.D出土遺物実測図

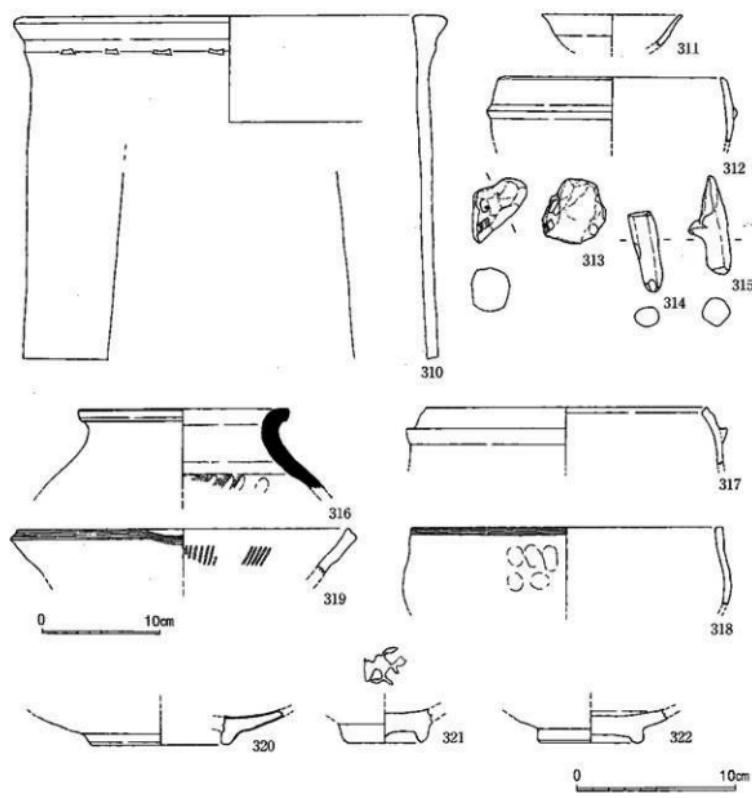


Fig.27 SD出土遺物(310)・包含層出土遺物(311~322)実測図

第Ⅳ章 考察

1. 岩村土居城の概要

岩村土居城の築城年代を示す文献資料はなく、城主も不明である。土佐の南北朝時代の争乱を伝える「佐伯文書」によると、建武3(1336)年4月26日に岩村城が北朝方に攻められ、城郭が焼拂われたことが記載されている。したがって遙くとも南北朝初期にはこの地に城が築かれていたと推定される。

『長宗我部地検帳』には岩村郷の検地が天正16(1589)年に行なわれたことが記されている。その中で岩村城に関する記載は、

城ノ東

一、老反卅代 出八代 同(田井)

上 山中孫右衛門給

同し(東ワサダ)ノ西内外堀ダラシ共ニ

一、廿代 出廿八代 同 山田衆

中ヤシキ 上鶴源兵衛給

同し外ホリダラシ

一、武代 中 同 田所小次良扣

今 御直分

三ノヘイ外懸テ

一、老反 出十四代五歩 同

中ヤシキタ 中内千菊丸給

岩村城ノ南二ノ段外ノ堀共ニ

一、廿代 出卅五代五歩 同 宗左衛門み

中ヤシキ 楠瀬又兵衛給

二ノヘイホリダラシ共ニ

一、廿代 出廿代 同 主み

下ヤシキ内十二代定芝 新井野部与三兵衛給

同し東ホリタラシ

一、三代二歩 中 同 山田郷

上鶴源兵衛給

詰ヤシキ外懸テ

一、卅八代 上ヤシキ 同 主み

田所小次良給

西二ノヘイ

一、老反 出卅武代 城村

下ヤシキ内卅二代アレ 安達三良左衛門給

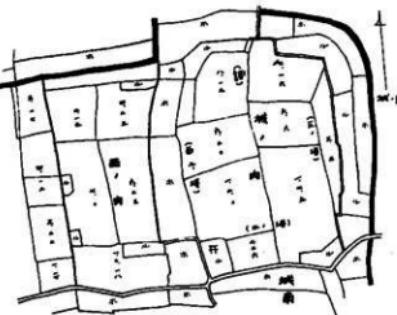


Fig.28 岩村土居城跡地籍図 (島田豊寿原図)

『高知県南国市中世城館跡』南国市教育委員会1985

西内

一、式反 出井代一歩半 同 主み

上ヤシキ 田所弥兵衛給

などである。これをもとに地籍図(Fig.28)の復元が試みられ、岩村城は約8反の城内とよばれる本城郭と、その西に3反36代の西内付属郭よりなる複郭式であることが指摘されている⁽¹⁾。また、「ホリダラシ」の地名より、天正年間には岩村城の堀は既に埋められ、屋敷地や耕地となっていたことが窺える。

2. 岩村土居城跡出土遺物について

岩村土居城跡の堀であるⅡ区では多量の弥生土器に混じって、中世の土器も1,444点出土した。その器類別内訳は次表のとおりである。土師質土器の出土量が最も多く722点出土し、全体の50.0%を占めているが、細片が多く、摩耗が激しい。壺・皿で97.7%を占め、突出しているが、(151・152)のように外面に格子目状の叩きをもつ鍋も若干出土している。国産陶器が次いで多く445点出土し、30.8%を占めている。備前焼が大半を占め、Ⅲ期(14世紀)～Ⅳ期(15世紀)の壺・甕・擂鉢が出土している⁽²⁾。瓦器は178点が出土し、12.3%を占める。擂鉢が2点出土している以外は鍋で、口縁部下に鍔を有するA類(160・164)と鍔を有さないB類(157～159、161～163)に分類できる。両者とも在地系の瓦器で、14～15世紀初頭に位置付けることができる⁽³⁾。輸入陶磁器は99点出土しており、6.9%を占めている。青磁57点、白磁39点、染付3点が出土している。青磁は全て龍泉窯系で概ね14世紀の後半から15世紀前半をあてることができる。

以上、遺物の出土状況から岩村土居城跡の堀が機能していた時期は、14世紀後半～15世紀代と考えられる。南北朝初期の動乱の中で一度は落城した岩村城が、守護代細川氏の入国による守護領制の発展の中で台頭してきた国人層の居城として堀を構え、防御を強化していくことが窺える。そして16世紀の長宗我部氏の土佐統一の過程の中でいつしか岩村城は廃城となり、堀も遅くとも16世紀後半には埋められ、屋敷地や耕地になっていたと考えられる。

なお、土塁で囲まれた本城郭やその西側の西内付属郭など岩村城の諸施設は未調査であり、今後の調査による一層の解明が望まれる。

土 師 質 土 器	壺	637片	88.3%	
	皿	68片	9.4%	
	鍋	14片	1.9%	
	羽釜	3片	0.4%	
	小計	722片	100.0%	50.0%
瓦 器	鍋	176片	98.8%	
	擂鉢	2片	1.2%	
	小計	178片	100.0%	12.3%
内 陶 器	擂鉢	40片	9.0%	
	壺・甕	388片	87.2%	
	染付	12片	2.7%	
	その他	5片	1.1%	
	小計	445片	100.0%	30.8%
輸 入 陶 器	青磁	57片	57.6%	
	白磁	39片	39.4%	
	染付	3片	3.0%	
	その他	片	%	
	小計	99片	100.0%	
	合計	1444片		100.0%

表1 Ⅱ区出土中世土器量および各器種の占める割合

3. 岩村遺跡群出土の縁釉陶器について

V・VI区の遺物包含層より合わせて14点の縁釉陶器の塊・皿類細片が出土した（巻頭図版8）。高知県内では縁釉陶器の出土量は少なく、官衙や寺院跡などに関連する特殊な性格を有する遺跡に限られる傾向がある。出土例としては、南国市の土佐國衙跡・土佐國分寺跡・白猪田遺跡・田村遺跡群・野市町の深淵遺跡・曾我遺跡・土佐山田町のひびのきサウジ遺跡・高知市の尾立遺跡・春野町の山根遺跡・大方町の官崎遺跡・中村市の風指遺跡・船戸遺跡などが挙げられる。各遺跡からの出土量は数点にすぎず、土佐國衙跡の25点⁽⁴⁾、曾我遺跡の45点⁽⁵⁾は突出しており、両遺跡が官衙跡と推定される根拠の一つとなっている。

岩村遺跡群からはV区より11点、VI区より3点の縁釉陶器が出土した。生産地は山城系の洛北地域のものが2点、小塙窯など洛西地域のものが2点、篠地域のものが2点、洛北か洛西か決めかねるものが1点、洛西か篠か決めかねるものが1点である⁽⁶⁾。また近江系のものが4点、猿投産のものが2点出土している。県内の猿投産の出土は曾我遺跡に次いで2例目、近江系の出土も土佐國衙跡⁽⁷⁾に次いで2例目である。時期は平安京土器編年のII期中（870年～900年頃）～III期古（930年～960年頃）である⁽⁸⁾。

以上のような縁釉陶器が出土した岩村遺跡群だが、同時代の遺構が検出されておらず、その性格付けは困難である。しかしながら、岩村遺跡群に旧物部川の自然堤防上に立地し、旧物部川の水運を強く意識した「川津」としての性格を有することが既に指摘されている⁽⁹⁾。10点の縁釉陶器が出土した高知市の尾立遺跡⁽¹⁰⁾が鏡川の船着場であった可能性が高いように、岩村遺跡群に旧物部川の水運を利用した流通拠点の要素を見い出すことができる。

件名番号	出土地	生産地	時期
109	V区	洛北	II期中（870～900年）
110	*	篠か小塙	II期新～III期古（900～960年）
111	*	篠	II期新～III期古（900～960年）
112	*	篠	II期新～III期古（900～960年）
113	*	洛西	II期中（870～900年）
114	*	篠	II期新（900～930年）
115	*	小塙・弓窯	II期中（870～900年）
イ	*	洛北・洛西	II期中（870～900年）
ロ	*	洛北	II期中（870～900年）
ハ	*	近江	III期古（930～960年）
ニ	*	猿投	II期中（870～900年）
ホ	VI区	近江	III期古（930～960年）
ヘ	*	近江	III期古（930～960年）
ト	*	近江	III期古（930～960年）

表2 縁釉陶器一覧

- 【註】
- (1) 島田豊寿「土居と土居城」「南国市史」上巻 南国市教育委員会 1979
- (2) 間壁忠彦「備前」「世界陶磁全集」3 日本中世 小学館 1977
- (3) 松田直則「中～近世小結」「田村遺跡群」第10分冊 高知県教育委員会 1986
- (4) 廣田佳久・森田尚宏他「土佐國衙跡発掘調査報告書」第1集～第11集 高知県教育委員会・南国市教育委員会 1980～1993
- (5) 高橋啓明・吉原達生「曾我遺跡発掘調査報告書」野市町教育委員会 1989
- (6) (財) 京都市埋蔵文化財研究所 平尾政幸氏のご教示による。
- (7) 廣田佳久「土佐國衙跡発掘調査報告書」第9集 高知県教育委員会 1989
- (8) 平尾政幸「縁釉陶器の変質と波及」「古代の土器研究－律令的土器様式の西・東3施釉陶器－」古代の土器研究会 1994
- (9) 出原恵三「川津としての岩村遺跡」「岩村遺跡群」II 南国市教育委員会 1997
- (10) 江戸秀輝「尾立遺跡」(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1995



番号	道 路 名	出 土 地	器 種	点 数	報 告 書 等
1	岩村遺跡群	南国市福船	皿・碗	14	『岩村遺跡群』Ⅲ 1998
2	土佐國衙跡	南国市比江新ラ田	坏	1	『土佐國衙跡発掘調査報告書』第1集 1980
3	*	*	ダイリ	不明	『土佐國衙跡発掘調査報告書』第2集 1981
4	*	*	府中	碗	1
5	*	*	金星	坏	2
6	*	*	金星	皿・碗	20
7	土佐國分寺跡	南国市国分	皿等	2	『土佐國分寺跡発掘調査報告書』第2集 1989
8	白猪田遺跡	南国市久礼田	皿	3	『白猪田遺跡』 1997
9	深瀬遺跡	香美郡野市町深瀬	皿・碗	6	『深瀬遺跡発掘調査報告書』 1989
10	曾我遺跡	*	曾我	皿・碗・壺	45
11	尾立遺跡	高知市尾立	碗	10	『尾立遺跡』 1995
12	山根遺跡	吾川郡春野町山根	盤	1	
13	風指遺跡	中村市森沢風指	皿	9	『後川・中筋川埋藏文化財発掘調査報告書』Ⅱ 1989
14	宮崎遺跡	幡多郡大方町加持	皿	4	

Fig.29 緑釉陶器出土遺跡分布図

遺物観察表1

Fig. No	擇団番号	出土地点	器 種	法身(cm)				特 徴	備 考
				口径	器高	胴径	底径		
6	1	V区 S X 1	弥生 鏡	13.6	(5.6)			チャートの粗粒砂を含む。橙色。頂部外面に4条の凹線を施す。内面指溝压痕著。口縁端部に刻印を施す。	
*	2	*	*	15.4	(2.2)			チャートの粗粒砂を含む。浅黃橙色。内面ハケ。	
*	3	*	*	15.6	(2.3)			チャートの粗粒砂を含む。LJ線部が凹印めだし、内面複数ハケ。口縁端部しつかりした面取り。外表面焼け。	
*	4	*	*	12.5	(4.4)			チャートの粗粒砂を含む。にぶい褐色。外表面印き。内面ハケ。LJ線端部は焼み出して黒いナダ。	
*	5	*	*		(4.8)		5.4	チャートの粗粒砂を含む。橙色。底部付近外表面印き。底部外面範囲ハケ。内面指溝压痕あり。外表面大きな黒斑あり。	
*	6	*	*		(2.9)		4.6	チャート・赤色風化繊の繩・粗粒砂を含む。灰白色。外表面印き。内面ハケ、ヘラ磨き。	
*	7	*	*		(4.2)		5.8	チャート・石英の粗粒砂を含む。灰褐色。外表面ハケ。	
*	8	*	*		(3.5)		4.0	チャート・石英の粗粒砂を含む。灰褐色。外表面ハケ、内面焼ナダ。外面に黒斑あり。	
*	9	*	*		(3.2)		6.4	チャートの粗粒砂を含む。橙色。内面木目の粗いナダ。外表面ナダ。	
*	10	*	弥生 鏡	13.4	11.5		7.0	チャート・石英他の小繩・粗粒砂を含む。橙色。外表面印き+ハケ。内面ハケ+ナダ。LJ線部横ナダ。	
*	11	*	*	11.8	(7.1)			チャート・赤色風化繊の繩・粗粒砂を含む。橙色。内面ハケ調整。	
*	12	*	*		(5.4)		4.2	チャートの粗粒砂を含む。灰白色。内面ハケ。外表面黒度あり。	
*	13	*	*		(2.3)		3.6	チャートの粗粒砂を含む。橙色。内・外表面の変形が激しい。外表面焼ける。	
7	14	V区 S K 1	土錐	全長 3.3	全幅 1.7	全厚 0.6	孔径 0.5	チャートの粗粒砂を含む。灰白色。外表面焼ける。	7.2g
*	15	*	*	*	*	*	*	チャートの小繩・粗粒砂を含む。橙色。	13.8g
8	16	V区 S D 1	土器 壺		(1.5)		5.6	チャートの粗粒砂を含む。灰白色。内・外表面の変形が激しい。外底系切底あり。	
*	17	*	*		(1.3)		7.0	赤色風化繊の繩・粗粒砂を含む。橙色。内・外表面の変形が激しい。	
*	18	*	*		(2.0)		5.8	チャートの赤色風化繊の粗粒砂をわずかに含む。橙色。内・外表面の変形が激しい。外表面ヘラ起し底あり。底面上げ底。	
*	19	*	*		(2.2)		5.8	チャートの粗粒砂をわずかに含む。浅黄橙色。内・外表面の変形が激しい。外底系切底あり。底部底脚。	
*	20	*	土器 壺	14.8	(1.7)			精選された胎土。浅黄色。内・外表面ナダ。内面に2条の火ダスキー。白磁痕を模倣した土器脚。	
*	21	*	土器 壺	37.4	(9.0)		6.0	赤色風化繊。チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。LJ線部横ナダ。内・外表面ナダ。	
*	22	*	須恵器 壺		(2.8)			精選された胎土。灰白色。外面にわずかにコテアナの跡ある。外底系切底あり。	

遺物観察表 2

Fig. No.	拂岡番号	出土地点	器種	法量(cm)			特徴	備考
				口径	器高	底径		
8	23	V区 SD 1	乳頭器 塊		(2.7)	高台径 9.5	精選された胎土。灰色。外曲線ナデ。高台底部凹状を呈する。内・外面丁寧な横ナデ。	
*	24	*	乳頭器 塊		(5.6)	高台径 10.2	精選された胎土。内・外面横ナデ。高台外側にふん張る。	
*	25	*	器 体	16.4	(3.6)		精選された胎土。灰色。内・外面丁寧な横ナデ。	
*	26	V区 SD 4	乳頭器 塊		(1.7)	6.0	精選された胎土。灰色。外曲線ナデ。外底糸切痕あり。底部わざかに上げ底。	
*	27	V区 集石	*		(1.0)	9.7	精選された胎土。灰色。高台底部凹状をなす。内・外面横ナデ。	
9	28	V区 包含層	共生 壺	15.4	(4.2)		チャートの粗粒砂を含む。橙色。外面縦ハケ。口縁部内・外面強い横ナデ。	
*	29	*	*	20.0	(4.3)		チャートの粗粒砂を含む。橙色。外曲線ハケ+横ナデ。内面横ナデ。口縁増部強い横ナデ。	
*	30	*	*	18.7	(4.0)		チャートその他の小理・粗粒砂を多く含む。橙色。口縁部内・外面強い横ナデ。口縁増部強い横ナデ。底部外削痕ハケ。	
*	31	*	*	17.0	(3.0)		チャートの粗粒砂を含む。橙色。口縁部内・外面強い横ナデ。外面ハケ。	
*	32	*	*	24.2	(1.9)		チャートの粗粒砂を含む。橙色。口縁部に手彫竹管による波状紋を施す。内・外面の器表の荒れが激しい。	
*	33	*	*				チャートの粗粒砂を含む。橙色。外曲線ナデ。二重口縁。口縁増部外間に削目を施す。	
*	34	*	*	25.0	(1.7)		チャートの小窪・粗粒砂を含む。淡褐色。口縁部に竹竹状の刺突紋。内・外面の器表の荒れが激しい。	
*	35	*	*	32.0	(1.3)		チャートの縫・粗粒砂を含む。橙色。口縁部に二重凸形の刃状を施す。口縁上面に手彫竹管による刃突紋を施す。	
*	36	*	*	28.2	(2.3)		チャートの縫・粗粒砂を含む。橙色。口縁部外面縦ハケ。口縁増部は突出しによる強い横ナデ。	
*	37	*	*	21.2	(2.2)		チャートの小窪・粗粒砂を含む。橙色。口縁部強い横ナデ。内・外面の器表の荒れが激しい。	
*	38	*	*		(4.0)		チャートの縫・粗粒砂を含む。橙色。腹部に断面三角形の貼付突起を有する。外曲線ナデ。	
*	39	*	*	24.8	(1.9)		チャートの粗粒砂を含む。にぶい橙色。外曲線ハケ。内面ハケ。器壁が薄い。	
*	40	*	共生 壺	12.0	(6.0)		チャートの粗粒砂を含む。にぶい橙色。外曲引き+縦ハケ。内面ハケ。器壁が薄い。	
*	41	*	*	11.2	(8.0)		チャート・赤色風化色の粗粒砂を含む。浅黄褐色。外曲引き+縦ハケ。内面左上がりのハケ。	
*	42	*	*	15.4	(7.0)		チャートの粗粒砂を含む。にぶい橙色。外曲引き。内面削痕左上がりのハケ。口縁部横ハケ。	
*	43	*	*	11.8	11.4	1.9	チャート・石質・赤色風化色の粗粒砂を含む。外曲線から削痕かけられ、底より底盤がかけられ左上がりのハケ。内面削痕左上がり。口縁部内削痕ハケ。底に削痕がある。	
*	44	*	*	12.8	(12.5)		チャートの粗粒砂を含む。にぶい橙色。外曲引き+縦ハケ。内面ハケ。脚部外曲剥け。	

遺物観察表3

Fig. No	標印番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
				口径	器高	幅幅	底径		
9	45	V区 包含層	弦生 甕	152	(11.3)			チャートの粗粒砂を含む。浅黄褐色。外面全周にわたって右上がりの印き。内面腹ハケ+横ハケ。頭部は「く」字状に脱く屈曲。	
*	46	*	*	141	25.0			チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。外腹水平方向の印き、表面粗粒砂を含む。内面はヘラ削り且温ナメハケ調整。口縁丸みを帯びて反らす。底部外輪削り。	
*	47	*	*		(18.1)		2.0	チャートの粗粒砂を含む。橙色。外面印き+横ハケ。内面腹ハケ。腹部外輪削り。底盤がうすい。	
*	48	*	弦生 甕		(4.2)		4.6	チャートの粗・粗粒砂を含む。橙色。外面印きあり。内面擦ける。	
*	49	*	*		(4.8)		3.8	チャートの小繩・粗粒砂を含む。にぶい橙色。外面印き+ヘラ削り。底部被熱赤変。	
*	50	*	*		(5.7)		3.2	チャート・赤色風化織の頬・粗粒砂を含む。橙色。外面印き+ハケ。外腹黒斑あり。	
*	51	*	*		(2.6)		9.8	チャートの粗粒砂を含む。橙色。内・外腹の器表の荒れが激しい。	
10	52	*	弦生 甕		(2.25)		3.8	チャートの小繩を含む。橙色。内面指頭圧痕あり。底部外輪黒斑あり。	
*	53	*	*		(1.9)		4.5	チャートの粗粒砂を含む。橙色。内・外腹の器表の荒れが激しい。	
*	54	*	*		(3.3)		4.5	チャート・石英の小繩・粗粒砂を含む。浅黄褐色。外面印き。	
*	55	*	*		(2.7)		3.8	チャート・石英の小繩・粗粒砂を含む。橙色。内・外腹の器表の荒れが激しい。	
*	56	*	*		(3.8)		5.0	チャートの粗粒砂を含む。明褐色。外腹印き+ハケ。内腹ヘラ磨き。外腹に黒斑あり。	
*	57	*	*		(3.8)		1.8	チャートの粗粒砂を含む。にぶい褐色。外面印き。内面指頭圧痕あり。底部外輪黒斑あり。	
*	58	*	*		(4.1)		3.8	チャートの粗粒砂を含む。明褐色。外面印き+ハラ磨き。内面指頭圧痕あり。	
*	59	*	*		4.4 (3.9)			チャートの小繩・粗粒砂を含む。橙色。外面印き。内曲沿頭圧痕あり。内・外腹に黒斑あり。	
*	60	*	*		(5.2)		2.8	チャートの粗粒砂を含む。にぶい褐色。外面印き。内面指頭圧痕あり。	
*	61	*	弦生 甕	10.6	6.0		0.4	チャートの赤色風化織の小繩を含む。橙色。内外腹に黒斑。	
*	62	*	*	13.9	8.3		0.2	チャート・赤色風化織の小繩・粗粒砂を含む。褐色。内腹ハケ調整。底部外輪頭圧痕者。外腹口縁部より頭部にかけて大きな黒斑あり。内面擦ける。	
*	63	*	*		(7.5)		3.5	チャートの粗粒砂を含む。にぶい帶色。内・外腹器表の荒れが激しい。外面印き。内面ハケ。底部外輪頭圧痕あり。	
*	64	*	*	18.3	10.35		3.5	チャート・赤色風化織の小繩・粗粒砂を多く含む。褐色。内面右下がりのハケ調整。底部付近外輪に大きな黒斑あり。	
*	65	*	弦生 甕					複雑された胎土。下半部は黄褐色。上半部は浅黄褐色。外腹八角形ヒラ削り。八角面取り。底部との接合部で修理。	
*	66	*	弦生 支脚					チャートの小繩・粗粒砂を含む。黄褐色。外腹指頭圧痕者。一部傷けた。	

遺物観察表 4

Fig. No.	拂國番号	出土地点	器種	法量 (cm)			特徴	備考
				上径	径高	下径		
10	67	V区 包含層	土師器 皿	14.2	(24)	9.5	精選された胎土。橙色。外面ヘラ削り。内面横ナデ。外底ヘラ切り後、丁寧なナデ。	
*	68	*	*	16.6	(17)		チャート・赤色風化塵の細・粗粒砂を含む。明褐色。内・外面横ナデ。	
*	69	*	土師器 蓋	15.6	(18)		チャートの細・粗粒砂を含む。橙色。内・外面器表の荒れが激しい。	
*	70	*	土師器 环		(1.3)	8.0	赤色風化塵・チャートの粗粒砂を含む。にぶい褐色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
*	71	*	*	12.8	(22)		赤色風化塵の粗粒砂を含む。橙色。内・外面横ナデ調整。	
*	72	*	*	10.6	(16)		精選された胎土。灰白色。内・外面丁寧な横ナデ。	
*	73	*	*	12.8	(22)		チャートの粗粒砂を含む。明褐色。内・外面横ナデ。	
*	74	*	*		(0.8)	7.0	チャート・墨の粗粒砂を含む。灰白色。内・外面器表の荒れが激しい。系切り。	
*	75	*	*		(1.4)	4.7	チャートの粗粒砂を含む。にぶい褐色。内・外面器表の荒れが激しい。	
*	76	*	*		(1.6)	6.8	チャートの粗粒砂を含む。にぶい褐色。内・外面横ナデ。	
*	77	*	*		(1.7)	(6.2)	精選された胎土。灰白色。内・外面器表の荒れが激しい。	
*	78	*	*		(1.7)	高台径 7.1	チャート・赤色風化塵の粗粒砂を含む。石英砂多く含む。灰白色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
*	79	*	*		(1.65)	6.2	チャートの細・粗粒砂を含む。浅黄色。内・外面器表の荒れが激しい。わずかに上げ底。	
*	80	*	*		(2.4)	3.8	チャートの細・粗粒砂を含む。にぶい褐色。外側横ナデ。高台部分ヘラ削り。外底ヘラ切り痕あり。	
*	81	*	*		(2.1)	3.9	チャートの粗粒砂・小運を含む。灰白色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底系切痕あり。	
*	82	*	*	13.5	4.3	高台径 9.2	チャートの細・粗粒砂を含む。灰白色。内・外面横ナデ。断面三角にとがった高台。	
*	83	*	土師器 皿	13.8	(28)		赤色風化塵の細・粗粒砂を含む。浅黃褐色。内・外面器表の荒れが激しい。	
*	84	*	*	15.2	(5.0)		チャートの粗粒砂をわずかに含む。暗灰褐色。内・外面横ナデ。外面様ける。	
*	85	*	*	13.0	(2.1)		精選された胎土。浅黃褐色。内・外面器表の荒れが激しい。	
*	86	*	*		(1.3)	高台径 7.4	チャート・赤色風化塵の細・粗粒砂を含む。浅黃褐色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
*	87	*	*		(1.15)	高台径 5.6	チャートの粗粒砂を含む。灰白色。内・外面器表の荒れが激しい。「ハ」字状の割付窓台を有する。	
*	88	*	*		(1.8)	高台径 6.2	長石の細・粗粒砂を含む。灰白色。内・外面器表の荒れが激しい。	

遺物観察表 5

Fig. No.	件名番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
10	89	VIS 包含層	土器器 壇		(1.75)		高台径 6.3	石英・灰石の粗粒砂を含む。浅黄橙色。内・外表面器表の荒れが激しい。	
*	90	*	*		(1.8)		高台径 6.2	チャートの細・粗粒砂を含む。浅黄橙色。内・外表面器表の荒れが激しい。高台は、外方にふん張る。	
*	91	*	*		(1.8)		高台径 4.7	精選された粘土。灰白色。内・外表面器表の荒れが激しい。	
*	92	*	*		(3.0)		高台径 9.4	精選された粘土。浅黄橙色。内・外表面器表の荒れが激しい。	
*	93	*	*		(2.4)		高台径 6.4 cm	チャートの細・粗粒砂を含む。橙色。外面横ナデ。内面ヘラ削り。貼付高台高 0.5 cm	
*	94	*	土器器 高坏		(2.1)			精選された粘土。灰白色。内・外表面器表の荒れが激しい。脚上端に切り込みあり。	
*	95	*	*	14.0	(5.5)			チャート・赤色風化繊の細・粗粒砂を含む。橙色。粗部横ナデによるJ字な凹取り。内・外表面器表の荒れが激しい。	
*	96	*	土器器 窓					赤色風化繊・チャートの細・粗粒砂を含む。浅黄橙色。外表面ヘラ磨き。内面は、發色の荒れが激しい。	
*	97	*	土器器 窓		(11.0)			チャート・赤色風化繊の小窓・粗粒砂を含む。橙色。口縁部から頸部にかけて内・外面横ハケ削型。	
*	98	*	*		(3.25)		10.9	チャート・赤色風化繊・雲母の細・粗粒砂を含む。内・外表面器表の荒れが激しい。	
11	99	*	土器器 窓		(4.2)			チャートの細・粗粒砂を含む。浅黄橙色。外表面ハケあり。	
*	100	*	土器器 窓	26.9	(3.0)			チャートの細・粗粒砂を含む。浅橙色。内・外表面器表の荒れが激しい。	
*	101	*	*	26.6	(3.0)			明褐色。内・外表面器表の荒れが激しい。	
*	102	*	須恵器 壇		(1.3)		5.0	精選された粘土。橙色。内・外表面器表の荒れが激しい。底部黒斑あり。外底糸切痕あり。	
*	103	*	*		(1.75)		7.6	精選された粘土。橙色。内・外表面器表の荒れが激しい。外底ヘラ切り痕あり。	
*	104	*	*		(2.5)		高台径 8.7	チャートの粗粒砂を含む。灰色。内・外表面横ナデ。外底ヘラ切り後ナデ。	
*	105	*	須恵器 壇	14.0	5.6		高台径 8.2	精選された粘土。灰白色。内・外表面器表の荒れが激しい。外底ヘラ切り。1 cm 縦の粘土縫の位置を認める。内・外表面横ナデ。	
*	106	*	*	6.8	6.3		高台径 5.0	精選された粘土。灰白色。内・外表面横ナデ。口唇部丸く丁寧に仕上げる。高台外側にふん張る。高台底部凹状をなす。	
*	107	*	須恵器 壇	11.8	(3.7)			精選された粘土。灰白色。口縁部丁寧なナデ。内・外表面横ナデ。	
*	108	*	*		(10.25)		高台径 6.8	チャートの細・粗粒砂を含む。灰色。内・外表面横ナデ調整。外底ヘラ切り痕あり。	
*	109	*	縄陶 壇	18.0	(4.6)			精選された粘土。底地は灰色の須恵質。内・外表面薄緑色の施釉。口縁部内面に一条の凹縫。内・外表面丁寧な候ナデ。	洛北窯。9世紀後葉。
*	110	*	*		(1.3)		高台径 7.0	精選された粘土。底地は灰色の須恵質。高台外側で薄緑色の施釉。削り出し高台。	洛西(小堀)か様窯。10世紀前葉。

遺物観察表 6

Fig. No	埠頭番号	出土地点	器種	法量(cm)			特徴	備考
				L径	幅高	厚径		
11	111	V区 包含層	縦盤 壇		(1.3)	6.0	精選された胎土。素地は、浅黄褐色の須恵質。内・外両面に薄緑色の施釉。削り出し高台付ける寸前に内側する底。	縦底。10世紀前業。
*	112	*	*		(1.2)	高台径 6.0	精選された胎土。素地は浅黄褐色の土師質。底部以外の内・外両面に薄緑色の施釉。底部内面縁に1条の沈継。底面付付算痕。	縦底。10世紀前業。
*	113	*	*		(1.5)	6.2	精選された胎土。素地は灰色の須恵質。内・外両面にわずかに薄緑色の施釉が残る。外底ペラ切り。全面施釉。外底わずかに蛇ノ目状を呈す。	洛西産。9世紀後業。
*	114	*	*		(1.4)	高台径 9.0	精選された胎土。素地は灰色の須恵質。内・外両面に薄緑色の施釉。附付の細い高台。	狭投室。9世紀後業。
*	115	*	*	2.7		7.0	精選された胎土。素地は灰色の須恵質。内・外両面に薄緑色の施釉。内・外両面に横ナギ。	
*	116	*	青磁 碗		(2.5)	高台径 4.8	精選された胎土。灰色。外底以外全面濃緑色の施釉。高台厚1.5cm。外底中央部に兜巾を残す孔。	瓶底
*	117	*	白磁 碗		(2.3)	高台径 7.0	灰白色堅密な胎土。灰白色。外底以外全面に灰白色の施釉。断面円形のしっかりした削り出し高台。	
*	118	*	銅鏡	17.8	(1.1)		暗緑色。口縁部外面に2条の沈継。	152g
*	119	*	砥石				砂岩。3面に使用痕あり。	
*	120	*	*				2面に使用痕あり。	
*	121	*	備前 檻桶	26.0	(3.6)		精選された堅密な胎土。灰色。外底にぶい黄色の自然釉がわずかにかかる。内・外両面ナギ。	
*	122	*	十輪	全長 2.6	全幅 1.3	全厚 0.4	孔徑 0.65 チャート・石英・赤色風化塵の粗粒砂を含む。淡緑色。	41g
*	123	*	*	3.2	0.8	0.3	精選された胎土。灰黄色。	27g
*	124	*	*	3.2	1.3	0.35	精選された胎土。淡褐色。	38g
*	125	*	*	3.5	1.4	0.6	精選された胎土。灰色。	55g
*	126	*	*	3.5	1.4	0.5	チャート・石英の粗粒砂を含む。橙色。一部欠損する。	73g
*	127	*	*	3.2	1.6	0.5	チャート・赤色風化塵の微粒砂を含む。橙色。	7.7g
*	128	*	*	3.8	1.8	0.65	精選された胎土。橙色。	94g
*	129	*	*	3.65	1.6	0.5	精選された胎土。橙色。	67g
*	130	*	*	4.8	1.3	0.4	チャートの粗粒砂を少々含む。褐色。硬く焼き上げられる。	83g
*	131	*	*	4.15	1.5	0.5	精選された胎土。淡褐色。	89g
*	132	*	*	3.8	1.9	0.6	チャートの粗粒砂を含む。橙色。	

遺物観察表7

Fig. No.	辨認番号	出土地点	器種	法身(cm)				特徴	備考
				口径 器高 厚径	全幅 全幅 0.6	孔徑 0.7	底径		
11	133	V区 包含層	土罐	全長 3.7	全幅 1.75	全厚 0.6	孔徑 0.7	チャート・赤色風化層の細粒砂を含む。橙色。	9.7 g
*	134	*	*	3.6	1.8	0.6	0.5	チャート・赤色風化層の細粒砂を含む。灰白色。	9.3 g
*	135	*	*	4.0	2.1	0.6	0.8	橙色。	13.6 g
*	136	*	*	3.5	1.9	0.7	0.7	チャートの粗粒砂を含む。褐色。外面に黒斑あり。一部欠損する。	9.9 g
19	137	Ⅷ-1区 内層	土器 小豆	6.5	1.5		4.0	精選された胎土。浅黄褐色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
*	138	*	*	6.6	1.2		5.1	精選された胎土。褐色。内・外面の器表の荒れが激しい。系切。	
*	139	*	土器 豆	13.0	(2.2)			精選された胎土。浅赤褐色。口縁部丁寧な横ナデ。口縁端をつまみ出し強く横ナデ。	
*	140	*	*	14.0	(2.6)			赤色風化層の細粒砂を含む。にぶい橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
*	141	Ⅷ-2区 外層	土器 环		(1.3)		4.8	チャートの細・粗粒砂を含む。橙色。外底部に系切痕あり。	
*	142	Ⅷ-1区 内層	*	13.4	(2.3)			チャートの細粒砂をわずかに含む。明褐色。内・外面横ナデ。	
*	143	*	*	12.2	(2.5)			チャート・赤色風化層の細粒砂を含む。橙色。内・外面横ナデ。	
*	144	*	*		(3.3)		5.6	精選された胎土。浅褐色。内面ロクロ日輪窓。外周窪ける。外底部に系切痕あり。	
*	145	*	*	14.2	(3.4)			精選された胎土。灰白色。口縁部丁寧な横ナデ。	
*	146	*	*	13.6	(3.4)			チャート・赤色風化層の細粒砂を含む。内面横ナデ。外周ヘラ削り。	
*	147	*	*	13.0	(3.3)			精選された胎土。にぶい橙色。内・外面横ナデ。非クロコ形成。	
*	148	*	*		(2.8)		5.6	チャート・赤色風化層の細粒砂を含む。橙色。内面ヘラ削りあり。外底部糸切痕あり。	
*	149	Ⅷ-2区 外層	*	14.2	(3.7)			精選された胎土。灰白色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
*	150	Ⅷ-1区 内層	*	18.8	(5.4)			赤色風化層の細粒砂をわずかに含む。浅黄褐色。内・外面ヘラ磨き。ハケ+ヘラ磨き。	
*	151	*	土器 鍋					チャート・石英の細・粗粒砂を含む。暗赤褐色。外面に格子目状の研ぎあり。	16世紀
*	152	*	*					チャート・石英の細・粗粒砂を含む。明赤褐色。外面に格子目状の研ぎあり。	
*	153	*	*	20.5	(4.6)			チャート・赤色風化層の細粒砂を含む。内・外縁部ナデ。肩部の轉赴文帯は、三角形の断面をなし、外周採げる。	
*	154	*	*	30.0	(6.0)			長石・石英の細・粗粒砂を含む。橙色。口縁部等な横ナデ。	

遺物観察表 8

Fig. No.	拂岡番号	出土地点	器種	法量(cm)		特徴	備考	
				口径	部高	副径	底径	
19	155	菅-1区 内側	土師器 羽釜	30.1	(5.5)			長石・石英の細・粗粒砂を含む。橙色。口縁端部丁寧な模ナデ。
*	156	*	土師器 羽釜		(7.6)			チャートの細粒砂を含む。明褐色。外面 ハラ刷り。内面ハケ。鶴部上面、脚部外面 焼ける。
*	157	*	瓦器 鍋	15.8	(3.6)			精選された粘土。灰白色。内・外面の器表 の荒れが激しい。
*	158	*	*	19.0	(3.2)			チャート・石英の細粒砂をわずかに含む。 灰色。内・外面の器表の荒れが激しい。
*	159	*	*	18.2	(3.7)			チャートの細粒砂を含む。内・外面横ナデ。 口縁端部に1条の凹部を施す。
*	160	*	*	18.0	(4.0)			チャートの細粒砂を含む。灰白色。鶴部は 新面台形状の粘土帯を貼り付ける。内・外 面の器表の荒れが激しい。
*	161	*	*	21.0	(5.5)			精選された粘土。暗灰。内・外面横ナデ。 口縁端部に1条に割り取る。
*	162	*	*	24.0	(3.9)			チャートの細粒砂を含む。灰白色。内・外 面の器表の荒れが激しい。
*	163	*	*	21.0	(8.8)			精選された粘土。外面は黒色。内面は灰色。 内・外横ナデ。脚部外面に指痕(?)痕あり。 口縁端部に1条に施す。
*	164	*	*	24.6	(4.0)			チャートの細粒砂を含む。灰白色。鶴部は 新面・舟形の粘土帯を貼り付ける。内・外 面の器表の荒れが激しい。
*	165	*	瓦器 擂鉢	19.6	(4.5)			チャートの細粒砂を含む。灰白色。口縁端 部丁寧な模ナデ。
*	166	*	*	20.0	(7.7)			精選された粘土。灰白色。口縁部外周強いナ デ。指紋(?)痕跡有。
*	167	*	瓦質 舞部					チャートの細粒砂を含む。灰白色。器表の荒 れが激しい。
*	168	*	*					精選された粘土。灰白色。器表の荒れが激 しい。
*	169	*	*					チャート・赤色風化鐵の細・粗粒砂を含む。 灰白色。
20	170	*	櫛前 盤	12.6	(3.8)			細かな砂粒が多く混じる赤褐色の堅密な粘 土。口縁端部は丁寧な模ナデで丸く仕上げ る。
*	171	*	*	11.3	(7.5)			灰色の堅密な粘土。外面は浅黄色の自然釉。 脚部上面に4条の凹部を施す。
*	172	*	*	13.0	(10.0)			チャートの小窪・粗粒砂を含む。灰白色。内・ 外横ナデ調整。口縁端部は1条に丸く仕 上げる。脚部外面に3条の側溝文。
*	173	*	櫛前 盤	38.1	(5.7)			小窪・粗粒砂を含む。やや粗い粘土。赤灰 色。内・外横ナデ。
*	174	*	*		(5.6)	14.1		長石・石英・小窪を含む。灰白色。内・外 横ナデ。
*	175	*	*	42.1	(7.6)			小窪・粗粒砂を含む。やや粗い粘土。赤灰 色。内・外横ナデ。
*	176	*	*	43.0	(8.3)			小窪・粗粒砂を含むや粗い粘土。赤灰色。 内・外横ナデ。口縁部折り返し。

遺物観察表9

Fig. No.	辨認番号	出土地点	器種	法量(cm)			特徴	備考
				内径	器高	口径		
20	177	VII-1区 内堀	備前 型		(20.5)		32.8	小窓・粗粒砂を含む。暗赤褐色。外面縦ハケ。長石が多い。
*	178	*	備前 型	30.0	(3.4)			石美その他の粗粒砂を含む。にぼい黃褐色。内・外面横ナデ調整。
*	179	*	備前 型	30.0	(4.3)			小窓・粗粒砂を含む。暗赤褐色。内・外面横ナデ調整。内面条線の単位は9本以上。
*	180	*	*		(6.7)			赤灰色の堅緻な胎土。内面は淡黄色の自然釉。内面の条線は7本単位。
*	181	VII-2区 外堀	*	27.5	(4.3)			小窓・粗粒砂を含む堅緻な粘土。灰色。内・外面横ナデ。
*	182	VII-1区 内堀	*	20.6	(6.0)			チャートの小窓・粗粒砂を含む。橙色。内・外面横ナデ隔壁。内面の条線は4本単位。
*	183	*	*		(6.3)		15.9	赤灰色の堅緻な胎土。外面強い横ナデ。内面の条線は8本単位。
*	184	*	*		(3.7)		15.1	橙色のやや粗い胎土。外面は強い横ナデ。内面の条線は10本単位。内面使用による磨耗。
*	185	*	*		(4.4)		13.4	長石・石英の小窓を含む。灰赤色の堅緻な胎土。内面の条線は8本単位。内面使用による磨耗。
*	186	*	陶器 こね跡	14.0	(3.0)			粗粒砂を含むやや粗い胎土。灰色。内・外 面横ナデ調整。
21	187	*	青磁 皿	8.6	2.4	高台径 5.2		灰白色の堅緻な胎土。濃緑色の釉を全面に施施するが、底部は削り取る。質人あり。 龍泉窯。15世紀。
*	188	*	青磁 碗	11.4	(3.2)			灰白色の堅緻な胎土。内・外面灰オリーブ色の施釉。
*	189	*	*	13.9	(3.3)			浅青褐色の胎土。内・外面に灰オリーブ色の施釉。
*	190	*	青磁 模花皿	11.8	(2.1)			灰色の胎土。濃緑色の施釉。模花皿。 龍泉窯。14世紀。
*	191	*	*	12.4	(2.1)			灰色の胎土。濃緑色の釉を施すが、細かい 気泡がある。模花皿。 龍泉窯。
*	192	*	青磁 碗	14.0	(3.7)			灰色の胎土。濃緑色の施釉。外面錐蓮弁。 龍泉窯。14世紀後葉。
*	193	*	*	16.3	(4.6)			灰白色の堅緻な胎土。内・外面淡緑色の施 釉。
*	194	*	*	10.2	(4.7)			灰白色の堅緻な胎土。内・外面に淡緑色の 施釉。外面に錐蓮弁紋。
*	195	*	*	13.6	(3.1)			灰色の胎土。淡緑色の施釉。外面に錐蓮弁 紋。
*	196	*	*		(1.9)	高台径 4.7		灰白色の堅緻な胎土。淡緑色の施釉。受付 は露胎。底部マンゴン心状を呈する。 龍泉窯。
*	197	*	*		(2.4)	高台径 5.8		高台径: 灰色の堅緻な胎土。淡緑色の釉を高台内面 まで施釉。外底蛇ノ目状に釉を削る。 龍泉窯。
*	198	*	*	14.8	6.4	高台径 5.2		灰色堅緻な胎土。淡緑色の釉を施す。外底 は、兜形を残し、露胎。高台下端を斜めに 削る。受付は水平。見込みに印花紋あり。 龍泉窯。

遺物観察表 10

Fig. No	排番号	出土地点	器種	法量 (cm)			特徴	備考
				口径	身高	胸径		
21	199	Ⅷ区 内堀	青磁 碗		(3.0)	高台径 5.0	灰色の精選された胎土。淡緑色の施釉。墨付はとがり気味。外底露胎。兎巾を残す。底部内面に印花紋。	組立窯
*	200	*	*		(2.8)	高台径 5.1	灰色の精選された胎土。やや青味のかかった淡緑色の釉を全面に施釉底部内面に印花紋。質入。	組立窯
*	201	*	*		(2.9)	高台径 4.6	灰白色の胎土。淡緑色の施釉。墨付はとがり気味。外底露胎。底部内面に印花紋。	組立窯
*	202	*	白磁 皿	9.8	(1.4)		白色の胎土。白色の透明感のある釉を施釉。外面下半露胎。	
*	203	*	*	12.8	(2.2)		灰白色的堅致な胎土。明オーリーブ灰色の施釉。	15世紀
*	204	*	白磁 碗	13.0	(1.7)		白色の胎土。わずかに青味を帯びた施釉。口ハゲ白磁。	14世紀初頭
*	205	*	兔付 皿		(1.4)	2.7	白色の胎土。白色の施釉。杏筒底。	明。16世紀。
*	206	*	白磁 皿	10.4	(2.7)		灰白色的堅致な胎土。内・外間に灰白色的施釉。口縁部内面は削り取る。	14世紀初頭
*	207	*	白磁 碗	13.2	(3.3)		白色の胎土。白色の施釉。玉様状口縁。	
*	208	*	湖戸 大目碗		(1.4)	高台径 4.6	灰白色的胎土。底部内面に黒色の施釉。高台形・外底露胎。	15世紀
*	209	Ⅷ-2区 外堀	兔付 皿	15.0	(2.2)		白色の胎土。外面に模紋。	青釉。16世紀。
*	210	*	兔付 碗	13.4	(6.2)		白色の胎土。外面に山水紋。	肥前
*	211	Ⅷ区 内堀	土瓶	全長 3.0	全幅 1.1	全厚 0.4	孔径 0.4	精選された胎土。にぶい橙色。
*	212	*	*	3.9	1.5	0.5	0.5	精選された胎土。灰白色。
*	213	*	*	4.1	1.9	0.5	0.5	精選された胎土。橙色。
*	214	*	*	4.7	2.0	0.7	0.5	チャートの細粒砂を含む。明褐灰色。
*	215	*	*	4.6	1.8	0.7	0.5	精選された胎土。橙色。
*	216	*	銅 製品	全長 9.65	全幅 1.5	全厚 0.6		小柄。
*	217	*	石臼丁	全長 4.5	全幅 4.35	全厚 0.6		直線的な片刃を有する。両面を丁寧な研磨で仕上げる。孔は両面より穿たれ、孔は約0.7cm。黄白。
22	218	Ⅷ-2区 TR 6	土器器 身		(1.6)	7.1	精選された胎土。にぶい橙色。底部外間に1条の沈痕あり。内・外の器表の荒れが激しい。	
*	219	Ⅷ-2区 TR 4	*		(1.7)	7.6	チャート・赤色風化層の細粒砂を含む。橙色。内・外の器表の荒れが激しい。底部上げ底。	
*	220	*	*		(1.8)	5.2	赤色風化層の細粒砂を含む。橙色。内・外の器表の荒れが激しい。底部内面クロロ目。	

遺物観察表 11

Fig. No.	件名番号	出土地点	器種	法量(cm)			考	
				口径	器高	胴幅		
22	221	Ⅷ-2区 TR 6	土器器 环		(3.5)		7.0	精選された胎土。橙色。内面ヘラ削り。外 肉厚部の荒れが激しい。底部外面にヘラ切 り痕あり。
*	222	*	土器器 环	24.0	(4.4)			チャートの粗粒砂を含む。浅黄色。内・外 面の器表の荒れが激しい。
*	223	Ⅷ-2区 TR 4	須恵器 环	18.3	(4.4)			粗粒砂を含む堅緻な胎土。灰色。口縁部 を角く仕上げる。内・外面横ナデ調整。
*	224	*	須恵器 环	11.2 (2.0)	受部径 13.0			精選された胎土。灰白色。内・外面横ナデ 調整。
*	225	*	*		(1.9)		高台径 8.8	チャートの粗粒砂を含む。内・外面横ナデ 調整。
*	226	Ⅷ-2区 TR 6	須恵器 环		(1.4)		6.6	精選された胎土。灰色。内・外面の器表の 荒れが激しい。
*	227	Ⅷ-2区 TR 3	陶前 器		(3.8)		27.0	粗粒砂を含む堅緻な胎土。赤灰色。
*	228	*	陶前 器	24.0	(6.4)			赤灰白の堅緻な胎土。口縁部は灰色。口縁 端部の一部が湾曲する。
*	229	Ⅷ-2区 TR 4	陶前 器	30.8	(6.6)			赤灰白の堅緻な胎土。内・外面横ナデ。口 縁部外面に3条の凹線あり。
*	230	*	青磁 碗	12.1	(3.0)			堅緻な灰色の胎土。淡緑色の施釉。 龍泉窯
*	231	*	*		(2.3)		高台径 5.0	灰白色の堅緻な胎土。オリーブ黄色の施釉。 龍泉窯
*	232	Ⅷ-2区 TR 1	*		(1.6)		高台径 5.2	灰白色の堅緻な胎土。淡緑色の透明感のあ る施釉。外底に日焼付。蛇ノ目に施釉を削 る。底部外面印紋。 龍泉窯
*	233	Ⅷ-2区 TR 7	*					灰白色の堅緻な胎土。淡緑色の施釉。貼付 高台。底部内面草板。 龍泉窯
*	234	Ⅷ-2区 TR 4	白磁 碗	11.2	(3.2)			灰白色の堅緻な胎土。あけ釉。京焼風陶器 碗。
*	235	*	白磁 环		(1.5)		高台径 2.5	灰白色の堅緻な胎土。内面に白色の施釉。
*	236	*	灰釉 皿	13.5	(1.3)			灰白色の堅緻な胎土。内・外面に灰白色の 施釉。肥前系皿。
*	237	*	*	10.6	(2.4)			灰白色の精選された胎土。肥前系灰釉皿。
*	238	*	灰釉 碗		(1.6)		高台径 3.4	灰白色の堅緻な胎土。内・外面灰白色の施 釉。底部外面は露胎。
*	239	Ⅷ-2区 TR 3	*	10.8	(2.0)			灰白色の堅緻な胎土。浅黄色の施釉。
*	240	Ⅷ-2区 TR 7	*		(2.0)		3.8	灰白色の堅緻な胎土。灰白色の施釉。内底 に日焼あり。
*	241	Ⅷ-2区 TR 4	天目 茶碗		(3.3)		高台径 4.4	にぼい、暗色の堅緻な胎土。墨褐色の釉を内・ 外面に施釉するが、外底は、底部付近より 剥離する。
*	242	*	染付 碗	10.0	(5.1)			白色の堅緻な胎土。外面に山水紋。

遺物観察表 12

Fig. No.	標図番号	出土地点	器種	法量(cm)			特徴	備考
				L径	器高	胴径		
22	243	Ⅷ-2区 TR 4	鼎付 鏡		(14)		高台径 5.4	白色の堅緻な胎土。透明感のある施釉。
*	244	Ⅷ-2区 TR 7	*		(4.5)		高台径 4.2	白色の堅緻な胎土。灰白色の施釉。外面上 草紋。
*	245	Ⅷ-1区 SR 1	鼎生 盤	15.8	28.1	22.3	6.1	チャートの器。胎土をむし。褐色。外表面ハケ。口縁部外 面磨ナガ。腹周辺にしきりとした施釉あり。蓋部内面磨ナガ。底部内面磨ナガ。中筋部内面磨ナガ。施釉は多めあり。外底施釉あり。
23	246	*	*	17.6	31.2		6.5	チャート・石英・赤色風化砂の織。粗粒砂を含む。淡赤褐色。口縁部外 面磨ナガ。腹周辺にしきりとした施釉あり。蓋部内面磨ナガ。中筋部内面磨ナガ。底部外表面磨ナガ。外底施釉あり。外縁部外表面磨ナガ。
*	247	*	*	11.0	(7.8)			赤色風化砂。チャートの内・外・裏腹をむし。浅赤褐色。外 面磨ナガ。盤ナガ。内面磨ナガ。背面施釉あり。底部内面磨ナ ガによるくっかした施釉あり。口縁部外表面磨ナガ。
*	248	*	*		(7.9)			チャートの粗粒砂をわずかに含む。内・外 面木口の粗ハケ。
*	249	*	*	16.3	33.3	25.7	6.0	チャート・赤色風化砂の器。粗粒砂を含む。淡赤褐色。 外表面ハケナガ。頭部内面ハケ。胴部内面上方 へのヘラ削り。口縁部内面削ける。外底施釉あり。
*	250	*	鼎生 盤	12.6	16.4	12.9	1.9	精選された胎土。淡褐色。外面上印きを駆ハ ケで消す。内面木口部木口の悪い粗ハケ。 胴部木口削り(ドト)木口・外底搽ける。
*	251	*	*	11.6	20.8	14.1	3.8	チャート・右英の器。粗粒砂を含む。褐色。外 面ハケナガ。口縁部内面ハケ。胴部内面上方へのヘ ラ削り。下脚部外底黒度あり。底部木口削。
*	252	*	*		13.1	(13.7)		チャートの器。粗粒砂を含む。褐色。胴部内面下方の凹 き+緩ハケ。口縁部外表面ハケ+緩ナガ。口縁部内面ハケ。 底部内面ナガナダ。内面木口削りナガ。
*	253	*	*		13.6	(16.5)		チャートの器・粗粒砂を含む。褐色。外 面水平方向の凹き+緩ハケ。内面ハケ調整。 上方へのヘラ削りあり。胴部外底搽ける。
*	254	*	*		(23.0)		5.8	チャート・赤色風化砂の器。粗粒砂を含む。内木口。上脚部半 球形外壁は下脚部木口+緩ハケ。下脚部底面花+横木口等を以 てある。内面木口ナガ。既底部外表面ナダ。件外底削。
*	255	*	*		25.0	(21.1)		チャート・赤色風化砂の器。粗粒砂を含む。淡 赤褐色。上脚部水平方向の凹き。内面ハケ。下脚部木口 ナガ。内面木口ナダ。
24	256	*	鼎生 盤	22.2	9.4		3.0	チャート・右英の粗粒砂を含む。外表面口縁 部削りナガ。内面ハケ。底部木口くぼみ。
*	257	*	*	18.8	11.4		4.6	チャートの器・粗粒砂を含む。褐色。上脚部外表面切 き、下脚部底木口の粗ハケ。底部内面に施釉 直重あり。口縁部底木口ナダによる丁寧な施釉あり。
*	258	*	鼎生 高坏	17.7	(5.9)			チャートの器・粗粒砂をわずかに含む。に ぶい粗砂。内面ハケ。口縁部外表面横ナダ。
*	259	*	青磁 碗		(3.8)		高台径 3.7	灰白色の堅緻な胎土。淡褐色の器を高台内 部まで持続。外底縁ノ目状に輪を削る。底 部内面に白花紋あり。
*	260	Ⅷ-1区 SR 2	鼎生 盤	16.8	30.9		7.8	チャートの器。胎土をむし。褐色。口縁部外表面ハ ケ+緩ナガ。既底部外表面ハケ。口縁部内面ハケ。内 面木口ナガ。既底部外底黒度あり。
*	261	*	鼎生 盤	13.8	(12.6)			チャートの粗粒砂を含む。褐色。外表面水 平方向の凹き。胴部木口駆ハケ。内面木口ナ ガ。既底部外底黒度による既底部外底黒度。
*	262	*	*	12.4	18.8			チャートの粗粒砂を含む。灰褐色。外表面 印き+緩ハケ。口縁部外表面横ナダ。既底部外 底黒度。
*	263	*	*	13.8	(16.2)	14.6		チャートの粗粒砂を含む。灰褐色。外表面 印き+緩ハケ。口縁部外表面横ナダ。既底部外 底黒度。
*	264	*	*		(7.5)		1.7	チャートの粗粒砂を含む。灰褐色。外表面 印きを全て消す。内面既底部外底黒度。

遺物観察表 13

Fig. No.	埠岡番号	出土地点	器種	法量(cm)			特徴	備考
				口径	高さ	厚径		
24	265	Ⅷ-1区 S R - 2	甕生 甕	13.9	21.0	15.8	チャート・赤風化織の粗粒砂を含む。外面可一層ハケ。内面前方の唇付ナダ。口部端縁丸み丸。口部部内壁ナダ。内面ハケ。肩上部端縁とその反対側の下部端縁に三連孔がある。	
+	266	+	+	(17.3)			チャートの粗粒砂を含む。橙色。外面叩き。内面指捺ナダ。被熱赤変剥離。	
+	267	+	+		14.9		チャートの粗粒砂を含む。上刷部水平方向の叩き。下刷部叩き。波部外周黒度あり。内面指捺ナダ。はとんど丸底。	
+	268	+	+	(11.1)			チャートの小窪・粗粒砂を含む。橙色。内・外表面器表の荒れが激しい。内面指捺圧痕あり。底部外周黒度あり。丸底。	
+	269	+	甕生 甕	10.9	6.5		チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。外表面土がりの叩き。黒度あり。内面右下がりの木目感の強いハケ。	
+	270	+	+	12.5	6.0		チャートの粗粒砂を含む。橙色。外面下半部に水平方向の叩き。外面黒度あり。内面右下がりのハケ。	
+	271	+	+	12.3	6.8		チャートの粗粒砂を含む。橙色。内面木目感の強いハケ。外面上に大きな黒度が2つ。	
+	272	+	+	16.8	6.3		チャートの粗粒砂を含む。飛色。口唇部外周横ナダ。内面ハケ。	
+	273	+	+	19.4	6.9		チャートの粗粒砂を含む。明褐灰色。内・外表面ハケ調整。外面剥離する。丸底。	
+	274	+	+	18.9	7.0		チャートの網・粗粒砂を含む。浅褐色。外面ハケ。ハラ調盛あり。内面丁寧なハラ磨き。外面黒度あり。丸底。	
+	275	Ⅷ区 S R 2	+	17.0	12.0		チャートの粗粒砂を含む。橙色。外面ハケ。口唇部端縁取り。内面ハラナヘラ磨き。脚部外周黒度あり。はとんど丸底。	
+	276	+	+	20.6	9.2		チャート・赤色風化織の粗粒砂を含む。橙色。外表面水平方向の叩き。黒度あり。内面ハケがむすかに残る。	
25	277	Ⅸ区 SD 2	土器 小瓶	7.0	1.1	4.6	精選された粘土。浅黄褐色。内・外表面横ナダ。	
+	278	Ⅸ区 SD 3	土器 坛		(1.6)	6.2	赤色風化織の粗粒砂を含む。にぶい橙色。内・外表面の器表の荒れが激しい。	
+	279	+	+	10.0	4.1	6.4	チャートの粗粒砂を含む。浅黄褐色。内・外表面の器表の荒れが激しい。	
+	280	+	+	(2.5)		6.6	精選された粘土。にぶい橙色。内・外表面の器表の荒れが激しい。	
+	281	+	+		(1.4)	5.8	赤色風化織の粗粒砂を含む。にぶい橙色。底部内面に5条の沈線。外底部に糸切痕あり。	
+	282	+	+		(2.3)	4.5	精選された粘土。橙色。内面ロクロ目あり。外底部に糸切痕あり。	
+	283	+	土器 罐	22.2	(3.7)		石英・赤色風化織の粗粒砂を含む。橙色。内・外表面横ナダ。	
+	284	Ⅹ区 SD 2	土器 瓶		(6.1)		精選された粘土。浅黄褐色。脚部下面より下方剥離する。	
+	285	Ⅹ区 SD 3	青磁 瓶	11.8	(2.3)		灰色堅織な粘土。濃緑色の施釉。	龍泉窯
+	286	Ⅹ区 SD 3	青磁 碗	14.8			灰色の堅織な粘土。濃緑色の施釉。外面上に施釉剥離。	龍泉窯

遺物観察表 14

Fig. No.	探査番号	出土地点	器種	法規(cm)				特徴	備考
				口径	器高	肩径	底径		
25	287	Ⅷ区 SD 3	青磁 瓶		(2.7)		高台径 4.9	灰褐色の堅緻な胎土。濃緑色の施釉。外底部・ 臺付部に露胎。	龍泉窯
+	288	Ⅸ区 SD 4	*		(2.4)		高台径 4.8	灰色の堅緻な胎土。濃緑色の施釉。外底部・ 臺付部に露胎。	龍泉窯
+	289	Ⅷ区 SD 2	灰釉 壺		(6.3)		高台径 5.6	灰褐色の堅緻な胎土。明オリーブ灰色の施釉。 高台・外底部は露胎。	
+	290	*	灰釉 瓶		(6.2)		6.8	種造された胎土。灰色。外面に淡緑色の施 釉。内・外底部は露胎。内面はロクロ目あり。	
+	291	*	陶器 瓶		(4.3)		7.8	灰色堅緻な胎土。淡緑色の施釉。外底部・ 臺付・内面は露胎。内面にロクロ目あり。 高台内に墨書きあり。	
+	292	Ⅷ区 SD 3	陶器 瓶		(6.4)		高台径 10.3	暗赤灰色の胎土。内・外面横ハケ。	肥前系
+	293	*	陶器 瓶		(3.2)		高台径 4.6	明闊灰色の胎土。深白色の施釉。底部付近 外面部に露胎。内面部自横あと。	肥前系。17世紀前半。
+	294	Ⅸ区 SD 2	偏頭 鉢	31.2	(7.0)			小嘴・粗粒砂を含む。にぶい赤褐色。内面 素線の単位は8本。	
+	295	Ⅹ区 SD 3	偏頭 鉢		(10.9)		17.0	小嘴・粗粒砂を含む。にぶい赤褐色。内・ 外面横ナデ。	
+	296	*	*		(8.3)		33.2	小嘴・粗粒砂を含むやや粗い胎土。暗赤 色。内・外面横ナデ。	
+	297	Ⅸ区 SD 4	*		(5.7)		28.8	暗赤灰色の堅緻な胎土。外面部ナデ。	
+	298	*	*		(5.8)		30.7	小嘴・粗粒砂を含むやや粗い胎土。暗赤 色。外面部ナデ。	
26	299	Ⅷ区 SD 2	染付 瓶		(4.5)		高台径 4.7	白色堅緻な胎土。外面部に露井紋。	龍茶山産
+	300	*	*	10.8	6.0		高台径 4.2	白色堅緻な胎土。口縁部内面に雷紋。	
+	301	*	*	10.4	6.2		高台径 4.8	白色堅緻な胎土。外面に草花紋。内・外 面に灰白色の施釉。高台内に「茶」銘あり。	龍茶山産
+	302	*	染付 杯	6.7	2.9		高台径 2.6	白色堅緻な胎土。内・外面白色の施釉。口 縁部外間に草花紋。	肥前系
+	303	*	染付 瓶	9.8	6.0		高台径 4.5	白色堅緻な胎土。内・外面灰白色の施釉。 外面に草花紋。高台内に「サ」銘あり。	龍茶山産
+	304	*	*	11.6	(6.3)			白色堅緻な胎土。外面に草花紋。高台内に 「茶」銘あり。	龍茶山産
+	305	*	*	10.7	6.3		高台径 4.6	白色堅緻な胎土。口縁部内面草花紋。外面に 「丁子花」草花紋。高台内に「茶」銘あり。	龍茶山産
+	306	*	*		(3.0)		高台径 6.4	白色堅緻な胎土。外面に植東紋。高台内に 「茶」銘あり。	龍茶山産
+	307	*	*		(4.2)		高台径 6.2	白色堅緻な胎土。外面に山水紋あり。高台 内に「サ」銘あり。	龍茶山産
+	308	*	*	11.4	6.7		高台径 6.7	白色堅緻な胎土。外面に螺紋・草紋あり。 高台内に「サ」銘あり。	龍茶山産

遺物銀審表 15

図 版



V区 完掘状況（北より）



V区 SX 1 完掘状況（北より）

P L . 2



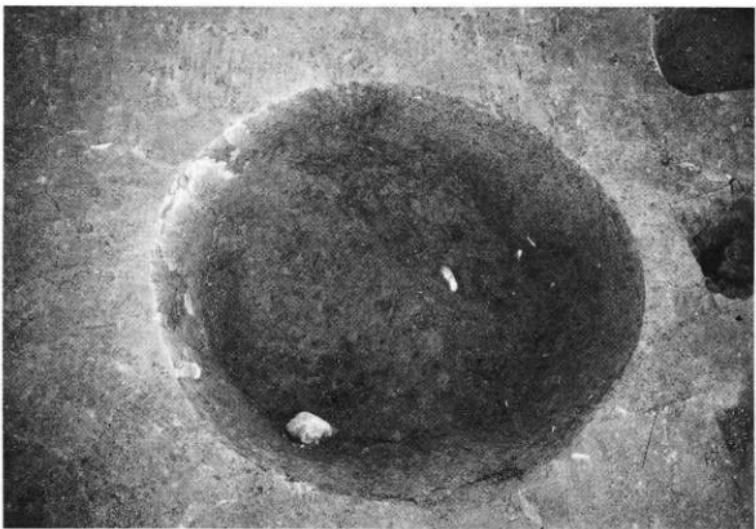
V区 SX1-P1遺物出土状況



V区 SK1完掘状況



V区 SK 2 完掘状况



V区 SK 3 完掘状况



V区 SK 4 完掘状況



V区 集石検出状況



岩村土居城跡 VII-1区内堀（北より）



岩村土居城跡 VII-1区内堀（南より）



岩村土居城跡 VII-1区 内堀南部集石（南より）



VII-1区 S R 1 遺物出土状況



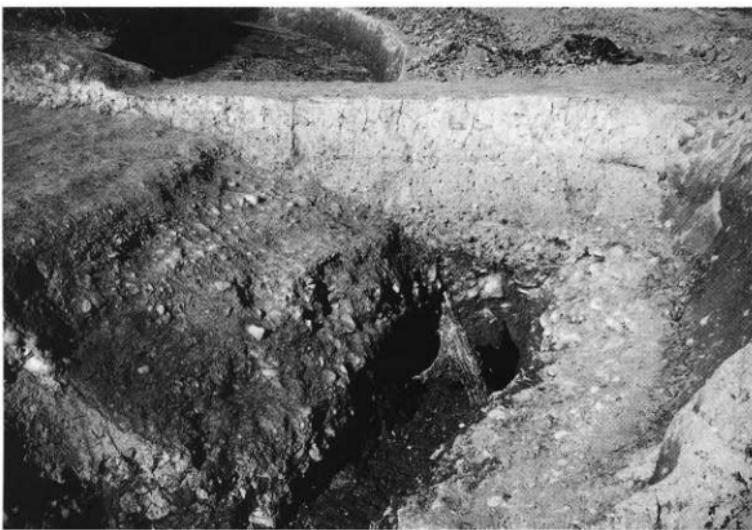
岩村土居城跡 VII-1区内堀セクション⑨-⑩



岩村土居城跡 VII-1区内堀床面出土遺物



岩村土居城跡 VII-1 区内堀セクション⑬-⑭



岩村土居城跡 VII-1 区外堀セクション⑯-⑰